

 **YAMAHA**

ELECTRONIC PIANO

P-80



取扱説明書

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもおお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。

○ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



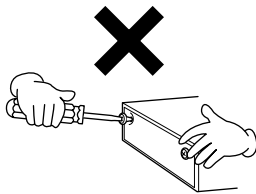
警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。



電源アダプターコード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、必ず指定のもの(PA-3B)を使用する。(異なった電源アダプターを使用すると)故障、発熱、発火などの原因になります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

準

備



注意

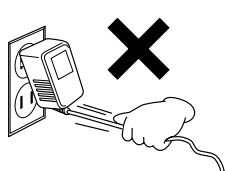
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



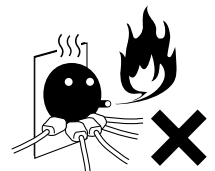
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



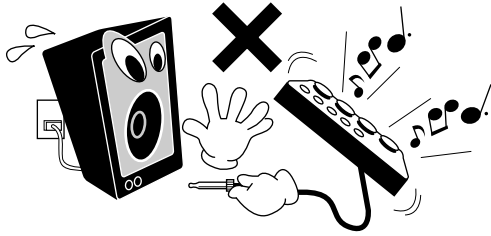
タコ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。



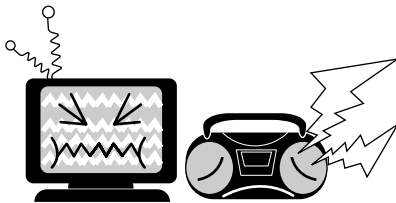
他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。



メモリーバックアップについて



この機器は、バックアップの設定(P41)によって、各種の設定内容を、電源を切ったあと約1週間保持することができます。約1週間以上過ぎるとバックアップされている内容は消えてしまいますので、少なくとも1週間以内に数分間は電源を入れてください。

作成したデータの保存について



作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などの外部機器に保存されることをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

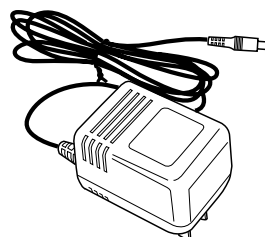
このたびは、ヤマハエレクトロニックピアノ P-80をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。P-80の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいよう、お願い申し上げます。

付属品(お確かめください)

保証書



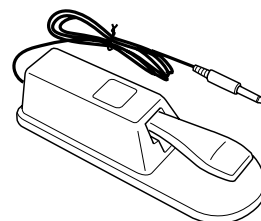
電源アダプター PA-3B



ご愛用者カード



ペダル



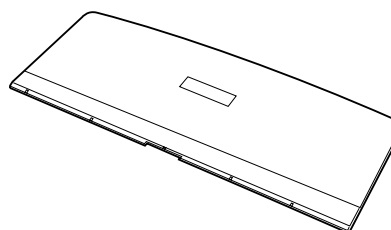
取扱説明書(本書)



オーディオケーブル (ピンプラグ ピンプラグ)



譜面立て



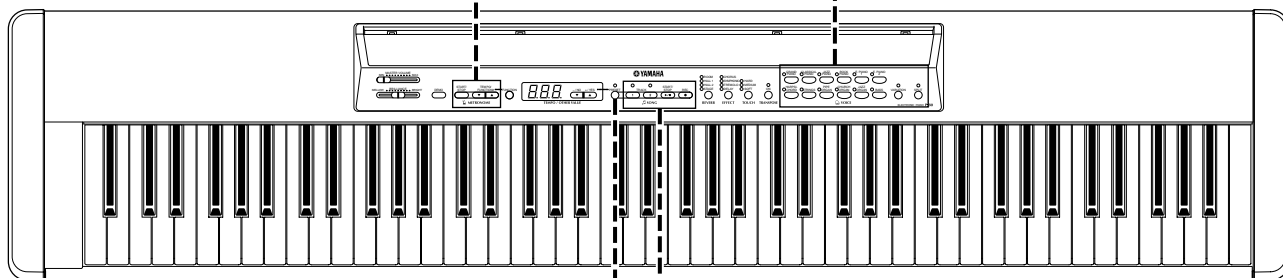
P-80でこんなことができます

リアルなピアノ音色と

リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。

ピアノ以外の音色でも演奏できます。
(P21～P27、P50)

メトロノーム機能が、練習の
お役に立ちます。(P27)



「音量調節ができる」
「ヘッドフォンで練習できる」
「軽量コンパクト」
「調律不要」
と、便利で経済的です。

ご自分の演奏を録音/再生できます。
(P28～P33)

本体にピアノ50曲の演奏データプリセット
ソングが入っています。これらを鑑賞する
だけでなく、便利な練習機能を使って練習
することもできます。
(P16～P20、P51)

取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準備** / 最初にお読みください。
- **本編** / P-80の機能を詳しく説明しています。
- **付録** / P-80をMDP10(「伴奏くん」と組み合わせる楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

表記上の決まり

【 】 : パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

・本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

⇒ の操作を行った結果、 の状態になることを示しています。
(操作の結果を示します。)

➡ の操作を行ったあと、 の操作を示しています。
(操作の手順を示します。)

この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

マックintosh
Macintoshはアップルコンピュータ株式会社の商標です。

ピーシー
PC-9801/9821は日本電気株式会社の商標です。

アイビーエム ビンシー エンター
IBM-PC / ATは、インターナショナルビジネスマシーン株式会社の商標です。

マイクロソフト コーポレーション
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

ミディ
「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名及び商品名等は、各社の登録商標及び商標です。

目次

準備

安全上のご注意	巻頭
付属品(お確かめください)	4
P-80でこんなことができます	5
取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます	6
ご使用前の準備	8

本編

各部の名前	12
操作の基本	14
デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)を楽しむ	16
デモ曲を聞く	17
ピアノ50曲を聞く	18
ピアノ50曲の片手練習	19
ピアノ50曲の部分練習	20
音色を選んで弾く	21
音色を選ぶ	21
音に変化を付ける...	
【 <small>バリエーション</small> VARIATION】/【 <small>ブリリアンス</small> BRILLIANCE】	
【 <small>リバース</small> REVERB】/【 <small>エフェクト</small> EFFECT】	22
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	23
【 <small>トランスポーズ</small> TRANSPOSE】	24
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	25
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて別々の2つの音色で弾く)	26
METRONOME <small>メトロノーム</small> を使う	27
演奏の録音(記録)	28
録音の手順(1つのトラックへの録音)	28
録音し直す場合	29
続いて2つめのトラックへ録音する場合	30
録音(記録)されるデータの種類	30
初期値の変更	31
録音上の注意	31
録音した曲の再生	32
再生の基本手順	32
再生に関する便利な機能	32

ファンクション	34
ファンクションでの基本操作	35
各ファンクション項目の説明	36
・ F1. 音程の微調整	36
・ F2. 音律(調律法)の選択	36
・ F3. デュアルの諸設定	37
・ F4. スプリットの諸設定	38
・ F5. 共鳴効果の深さの設定	39
・ F6. メトロノーム音量の設定	39
・ F7. ピアノ50曲(プリセットソング)のパート再生OFF時の音量設定	39
・ F8. MIDI機能の諸設定	39
・ F9. バックアップON/OFFの設定	41
パーソナルコンピューターとの接続	43
故障かな?と思ったら	45

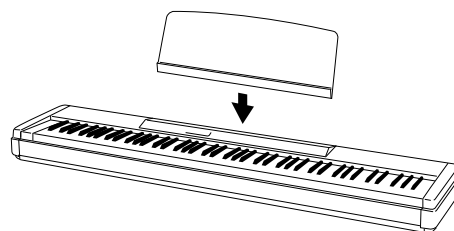
付録

MDP10(「伴奏くん」)を使って	
ディスクソフトを楽しむ	48
MIDIについて	49
音色のご紹介	50
デモ曲 曲名一覧表	51
基本設定一覧表	52
MIDIデータフォーマット	53
MIDIインプリメンテーションチャート	56
別売品のご紹介	57
仕様	57
索引	58
保証とアフターサービス	59

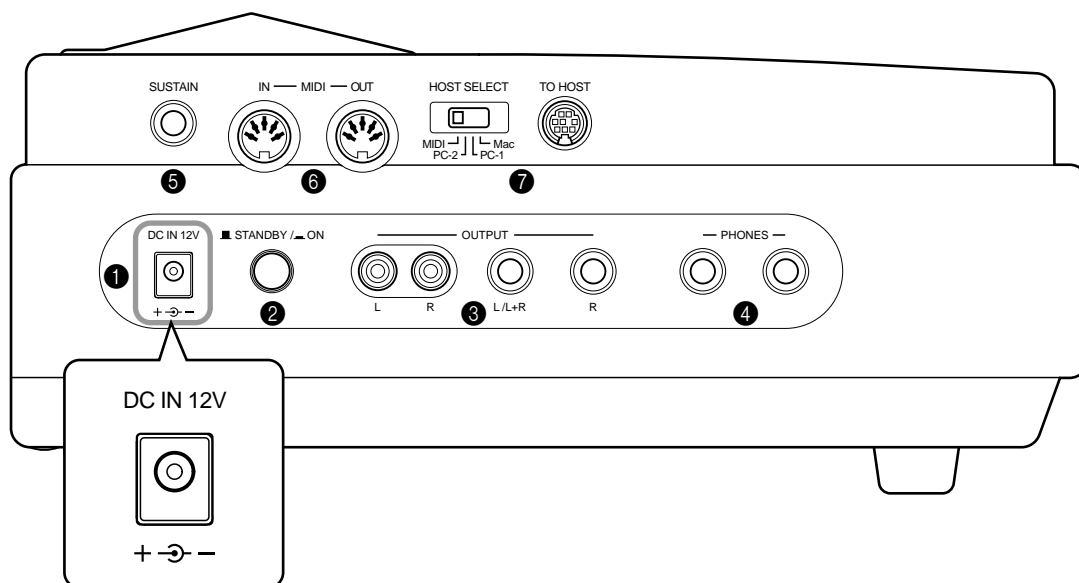
ご使用前の準備

■ 譜面立て

本体奥側の溝に差し込んで使用します。



■ 電源アダプターや外部機器との接続



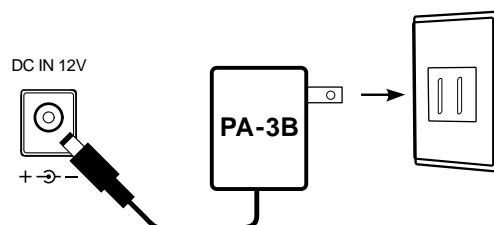
①【DC IN 12V】端子

付属の電源アダプターPA-3Bを接続します。

1. 本体の電源スイッチ【STANDBY/ON】が切れている（「STANDBY」になっている）ことを確認します。
2. PA-3Bの本体側プラグを【DC IN 12V】に差し込みます。
3. PA-3Bの電源プラグをコンセント（家庭用AC100V）に差し込みます。

PA-3Bを抜くときは、必ず逆の手順で行ってください。

- ❗ 電源アダプターは、必ず付属のPA-3Bをご使用ください。他の電源アダプターを使用すると、故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、十分ご注意ください。
- ❗ 使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



スタンバイ/オン
②【STANDBY/ON】スイッチ

電源スイッチです。P10「電源を入れる」をご参照ください。

アウトプット
③ OUTPUT【L】R】(ピン端子)、
【L/L+R】R】(標準フォーン端子)

オーディオケーブルを使って外部のオーディオ機器を接続します。

P-80の音声信号を^{アウトプット}OUTPUT端子から出力し、外部のオーディオ機器から音を出すことができます。

モノ出力には、【L/L+R】標準フォーン端子)をご使用ください。

- ❗ 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

ノート P-80本体にはスピーカーはありませんので、P-80の音を聞くには、外部のオーディオ機器に接続するか、ヘッドフォンを使用する必要があります。

フォーンズ
④【PHONES】端子
(標準ステレオフォーン端子)

ヘッドフォンを接続します。

【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)

- ❗ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

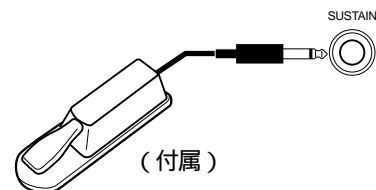
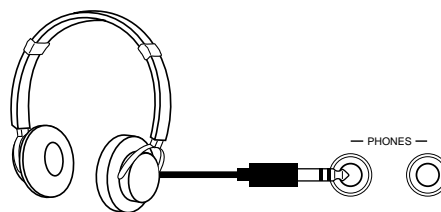
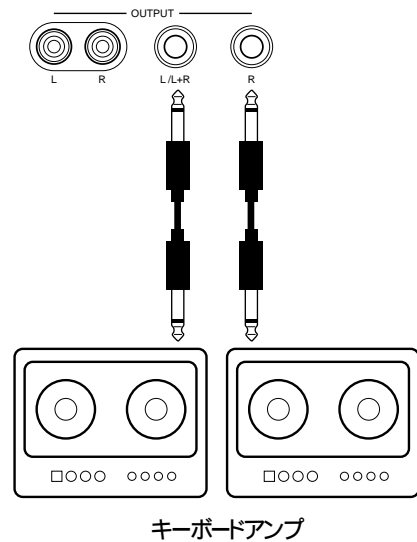
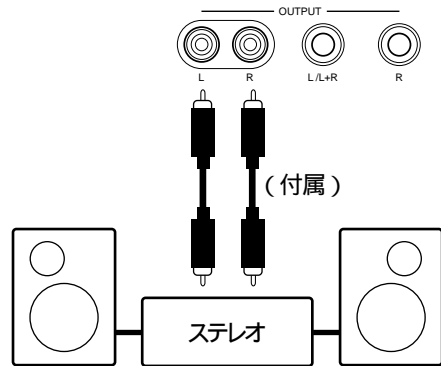
サステイン
⑤【SUSTAIN】端子

ペダルを接続します。

ペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。【GRAND PIANO】^{グランドピアノ}、^{クラシカルピアノ}【CLASSICAL PIANO】、^{ジャズピアノ}【JAZZ PIANO】の音色では、ペダルを踏んでいる間、響版や弦の共鳴効果も加わります。

ノート ペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

ノート 響版や弦の共鳴効果の深さをファンクションで変更できます。(P39)



⑥ MIDI【IN】OUT 端子

MIDIケーブルを使って外部のMIDI機器を接続します。
MIDI端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。
P49「MIDIについて」もご参照ください。

⑦ 【TO HOST】端子と HOST SELECTスイッチ

【TO HOST】端子には、パーソナルコンピューターを接続します。
HOST SELECTスイッチは、MIDI端子を使う場合は「MIDI」に設定します。【TO HOST】端子を使ってパーソナルコンピューターを接続する場合は、コンピューターの種類に応じて「MIDI」以外に設定します。
パーソナルコンピューターとの接続については、P43「パーソナルコンピューターとの接続」をご参照ください。

電源を入れる

【ノート】 電源アダプターや外部機器との接続については、P8～9をご参照ください。

- ❗ 電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。電源を入れるときはP-80 外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは外部オーディオ機器 P-80の順に行ってください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

電源アダプターの接続を確認し、左サイドパネルの【STANDBY/ON】スイッチを押します。

⇒ ディスプレイに表示が現れます。

電源を切るときは、もう一度【STANDBY/ON】スイッチを押します。

- ❗ 電源スイッチが「STANDBY」になっていても微電流が流れています。P-80を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

■ STANDBY / ON

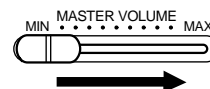


音量(ボリューム)調節

外部オーディオ機器を接続している場合は、鍵盤を弾いたりしながら、P-80の【MASTER VOLUME】と外部オーディオ機器の音量を最適な位置に調節します。

ヘッドフォンを使用している場合は、鍵盤を弾いたりしながらP-80の【MASTER VOLUME】を徐々に上げていきます。

【ノート】 大音量時に音が歪む場合は、【MASTER VOLUME】/外部オーディオ機器の音量を、音が歪まないレベルまで下げてください。



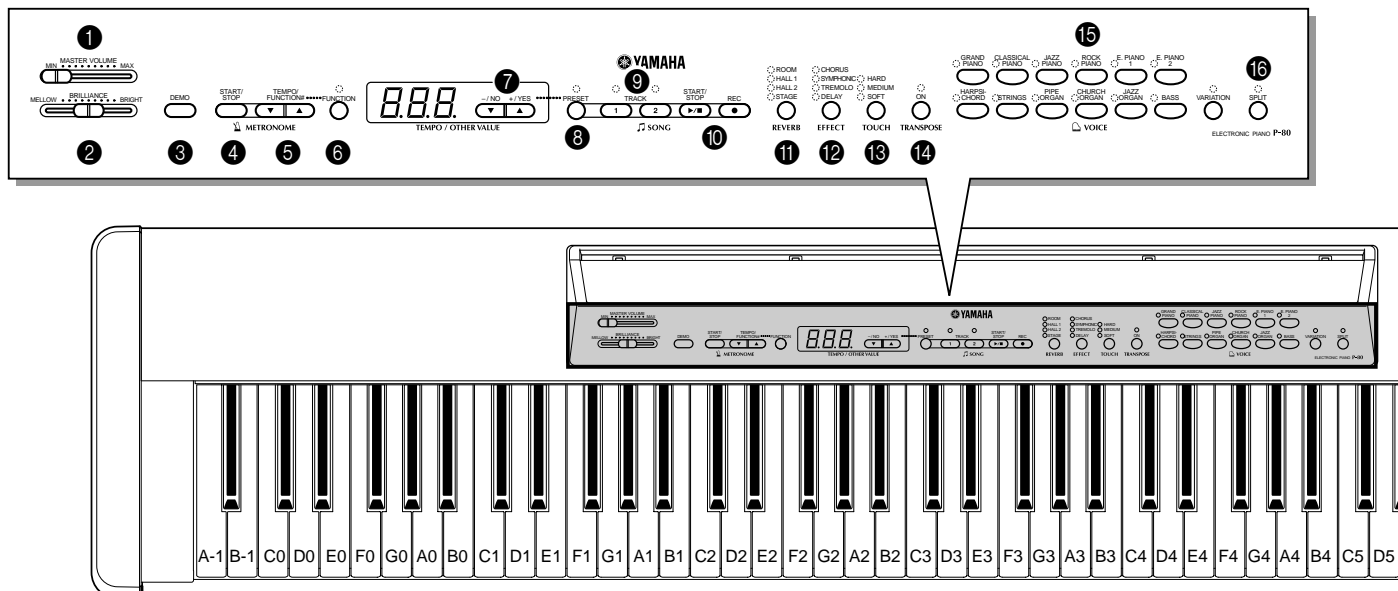
本編

P-80の機能を詳しく説明しています。

各部の名前	P12	ファンクション	P34
操作の基本	P14	ファンクションでの基本操作	P35
デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)を楽しむ	P16	各ファンクション項目の説明	P36
デモ曲を聞く	P17	・F1. 音程の微調整	36
ピアノ50曲を聞く	P18	・F2. 音律(調律法)の選択	36
ピアノ50曲の片手練習	P19	・F3. デュアルの諸設定	37
ピアノ50曲の部分練習	P20	・F4. スプリットの諸設定	38
音色を選んで弾く	P21	・F5. 共鳴効果の深さの設定	39
音色を選ぶ	P21	・F6. メトロノーム音量の設定	39
音に変化を付ける...		・F7. ピアノ50曲(プリセットソング)の	
【VARIATION】 ^{バリエーション} 【BRILLIANCE】 ^{ブリリアンス}		パート再生OFF時の音量設定	39
【REVERB】 ^{リバーブ} 【EFFECT】 ^{エフェクト}	P22	・F8. MIDI機能の諸設定	39
【TOUCH】 ^{タッチ}	P23	・F9. バックアップON/OFFの設定	41
【TRANSPOSE】 ^{トランスポーズ}	P24	パーソナルコンピューターとの接続	P43
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)...	P25	故障かな?と思ったら	P45
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて			
別々の2つの音色で弾く)	P26		
METRONOME ^{メトロノーム} を使う	P27		
演奏の録音(記録)	P28		
録音の手順(1つのトラックへの録音)	P28		
録音し直す場合	P29		
続いて2つめのトラックへ			
録音する場合	P30		
録音(記録)されるデータの種類	P30		
初期値の変更	P31		
録音上の注意	P31		
録音した曲の再生	P32		
再生の基本手順	P32		
再生に関する便利な機能	P32		

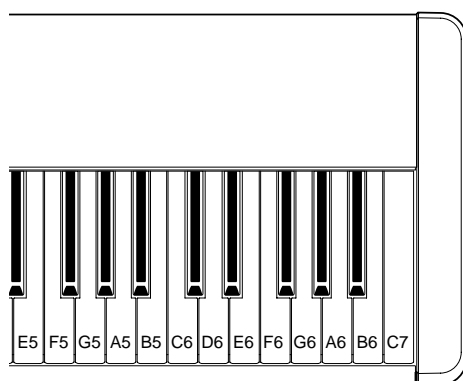
各部の名前

トップパネル



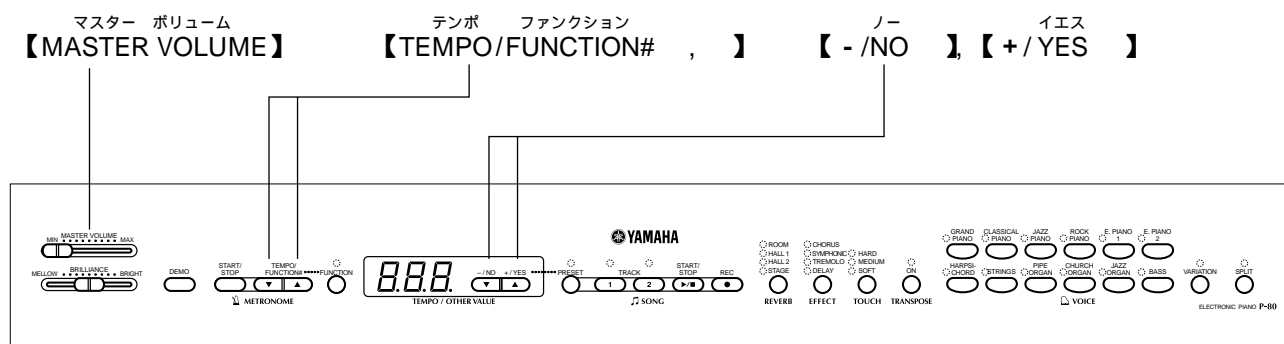
- ①【MASTER VOLUME】
マスター ボリューム P10
- ②【BRILLIANCE】
ブリリアンス P22
- ③【DEMO】
デモ P16
- ④METRONOME【START/STOP】
メトロノーム スタート/ストップ P27
- ⑤【TEMPO/FUNCTION# , 】
テンポ ファンクション P14、35

- ⑥【FUNCTION】
ファンクション P34 ~ 42
- ⑦【 - /NO , + /YES 】
ノーマル / イエス P14、35
- ⑧SONG【PRESET】
ソング プリセット P16
- ⑨TRACK【1】、【2】
トラック P29、32
- ⑩SONG【START/STOP】、【REC】
ソング スタート/ストップ レコード
..... P17 ~ 20、28、29、32



- ⑪ ^{リバーブ}【REVERB】..... P22
- ⑫ ^{エフェクト}【EFFECT】..... P23
- ⑬ ^{タッチ}【TOUCH】..... P23
- ⑭ ^{トランスポーズ}【TRANSCOPE】..... P24
- ⑮ ^{ボイス} VOICE, ^{バリエーション}【VARIATION】..... P22
- ⑯ ^{スプリット}【SPLIT】..... P26

操作の基本



マスター ボリューム 【MASTER VOLUME】

音量を調節します。

テンポ ファンクション 【TEMPO/FUNCTION# , 】

この2つのボタンは、場面に応じて下記のように異なる働きをします。

テンポ ・ TEMPOの調節

メロノームを使うときや、ピアノ曲(プリセットソング)録音した曲の再生時のテンポを調節します。ボタンを押し続けると値が連続して変わります。【】と【】を同時に押すと、標準テンポ(録音した曲に設定されているテンポ、または120)に戻ります。

ファンクション ・ FUNCTION項目の選択

ファンクションの項目を選びます(P35)。

ノー イエス 【 - /NO 】, 【 + /YES 】【】

ソング ・ SONGの選択

ピアノ50曲(プリセットソング)の曲を選びます。ボタンを押し続けると曲番号が連続して変わります。

ノー イエス ・ - /NO, + /YES機能

各種の値を設定、選択したり、操作の実行(YES)や中止(NO)を行います。ボタンを押し続けると値が連続して変わる場合があります。そのとき、項目によって最大値、最小値でストップする場合と、循環して変わる場合があります。【 - /NO 】【 + /YES】を同時に押すと、基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

メモリーバックアップについて

基本設定(工場出荷時の設定)では、バックアップはすべてOFF(バックアップされない)になっています。バックアップON/OFFの設定は、ファンクションで設定内容のグループごとに任意に切り替えることができます(P42)。ただし、「メモリーに録音された演奏データ」及び「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

P-80の機能の全体構成

大きく下記3つの機能があります。

演奏に関する機能(P21～P27)

録音/再生に関する機能(P28～P33)

ファンクションの各機能(P34～P42)

ファンクションとは...

P-80をお使いいただく上での各種の設定を、ご自分の使いやすい状態に設定する機能です。特に設定をしなくても工場出荷時に基本的な設定になっていますが、特に独自の設定をしたいときに、ご利用ください。

また、各種の応用的な操作がファンクションにまとめられています。(P34～P42)

メモリーとは...

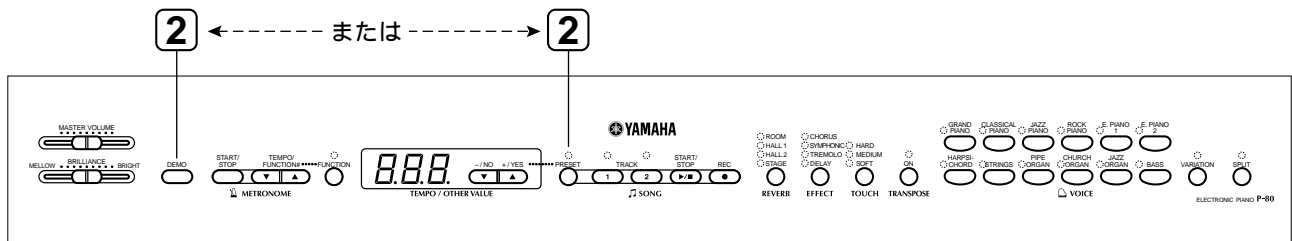
いろいろな設定や録音データが記憶される、P-80本体内部の記憶装置のことです。

バックアップとは...

メモリーに記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておく、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておく、次回電源を入れたときは基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。基本設定一覧表がP52に掲載されています。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)を楽しむ

P-80には、音色ごとに1曲ずつのデモ曲と、ピアノ名曲50曲(プリセットソング)が入っています。聞いてみましょう。ピアノ名曲50曲では、右手または左手部分を再生OFFにしてご自分で練習したり、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)したりすることができます。



操作

1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)【STANBY/ON】^{スタンバイオン}を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はあとでデモ曲/ピアノ曲を実際に再生して聞きながら調節します。

2 デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードに入る

デモ曲モード

【DEMO】^{デモ}を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

ピアノ曲(プリセットソング)モード

【PRESET】^{プリセット}を押します。

⇒ 【PRESET】^{プリセット}のランプが点灯します。

このあと、音色デモ曲の聞き方と、ピアノ名曲50曲(以降「ピアノ50曲」と呼びます)の聞き方/楽しみ方に分けて説明します。

デモ曲の曲名リスト...

音色ごとのデモ曲には、各音色の特長がよくわかる曲が選ばれています。デモ曲の曲名一覧表をP51に掲載しています。

デモ曲/ピアノ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲/ピアノ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(P28)のときと、曲の再生中(P32)は...

デモ曲/ピアノ曲モードには入れません。

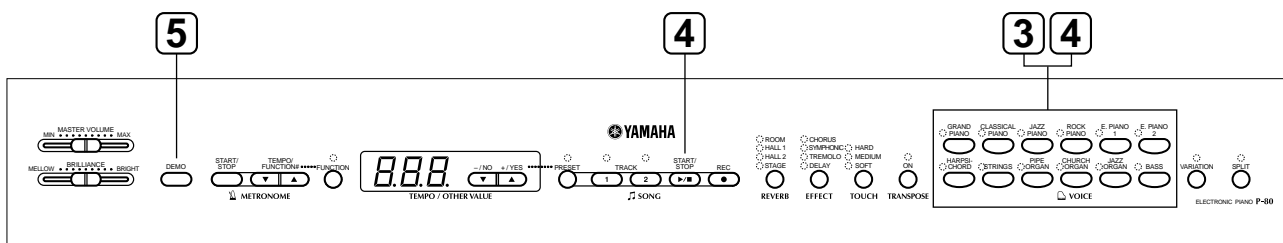
モードとは...

ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ファンクションという機能を使える状態のことをファンクションモードと言います。また、「種類」とが「方式」という意味に使われる場合もあります。

SONGとは...

P-80では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲/ピアノ曲も演奏データです。

■ デモ曲を聞く



P16の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずにソング【START/STOP】を押すと、グランドピアノGRAND PIANOの曲が再生されます。)

⇒ デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

音量の調節

デモ曲を聞きながら音量を調節します。(P10)

4 再生ストップ

再生をストップする場合は、ソング【START/STOP】か再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

5 デモ曲モードを抜ける

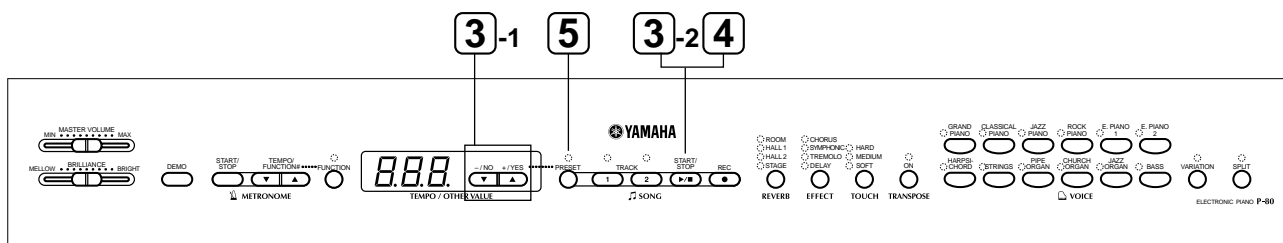
デモ【DEMO】を押します。

⇒ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習 (P19)」「部分練習」(P20)はできません。

ブリリアンス【BRILLIANCE】(P22)を調節することもできます。

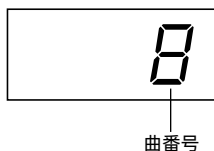
■ ピアノ50曲を聞く



P16の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

3-1 【^{ノー} - / NO】、【^{イエス} + / YES】を押して、聞くピアノ曲を選びます。



1 ~ 50: 聞く曲番号を指定します。

1曲だけ再生するモードです。

ALL: ^{オール}ピアノ50曲を順番に連続再生するモードです。

rnd: ^{ランダム}ピアノ50曲を順不同に連続再生するモードです。

3-2 ^{ソング} SONG【^{スタート/ストップ} START/STOP】を押すと再生がスタートします。

音量の調節

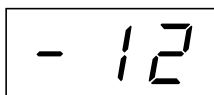
ピアノ曲を聞きながら音量を調節します。(P10)

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが

【^{テンポ} TEMPO/FUNCTION# , ^{ファンクション}】を押してテンポを変更できます。

【**+**】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



操作時、元のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50~50で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)元のテンポのときは「」と表示されます。

4 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、^{ソング} SONG【^{スタート/ストップ} START/STOP】を押します。

・ 続いて他の曲を再生する場合は、操作3に戻ります。

5 ピアノ曲(プリセットソング)モードを抜ける

【^{プリセット} PRESET】を押します。

⇒【^{プリセット} PRESET】のランプが消灯します。

手弾き音と再生音用に【BRILLIANCE】P22【REVERB】(P22)を、手弾き音用に【EFFECT】(P23)【TOUCH】P23を切り替えることもできます。
【REVERB】は新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)【HALL1】になります。

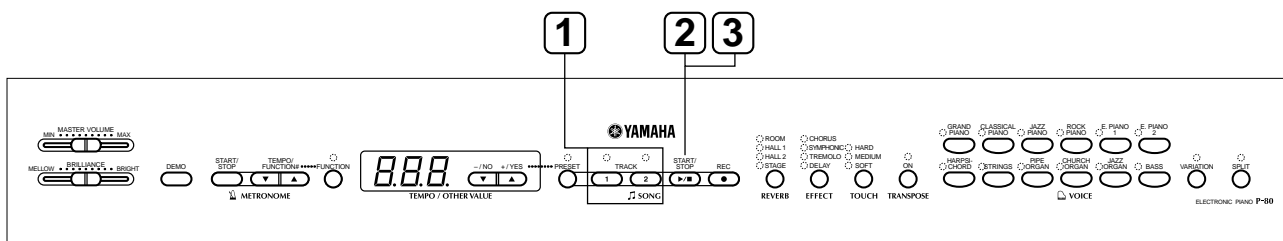
再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

テンポのリセット(再設定)...
新しい曲を選ぶとまたは、連続再生で新しい曲がスタートするとテンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手部分を再生オフしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

ピアノ50曲の片手練習

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれを再生ON/OFFし、再生OFFしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【1】に、左手パートが【2】に入っています。(一部、連弾アレンジになっていて【1】と【2】が連弾のパート別になっている曲があります。)



操作

1 練習するパートの再生をOFFにする

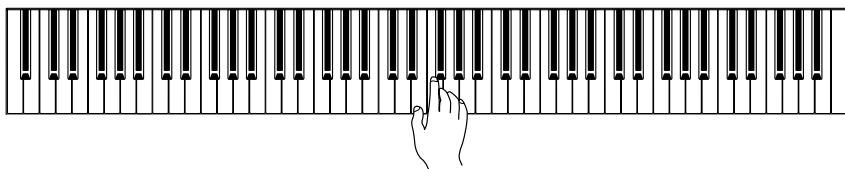
選曲したあと【1】【2】の再生OFFしたい方を押します。(選曲した時点では【1】【2】共ランプが点灯しています。)

⇒ 押した方のボタンのランプが消灯します。

・ それぞれのボタンは、押すごとに再生ON/OFFが切り替わります。

2 再生スタート/演奏

SONG【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生OFFしたパートをご自分で演奏してください。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)
鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのパートのボタンを押したままSONG【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

⇒ ディスプレイにシンクロスタートのマーク「2」が現れます。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

オール ランダム ALLとrnd(P18)のときはできません。

再生中の、パートごとの再生ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

再生OFFしたパートの音量調節...
再生OFFしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調節や、完全に音を消す設定が、ファンクション(P39)でできます。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

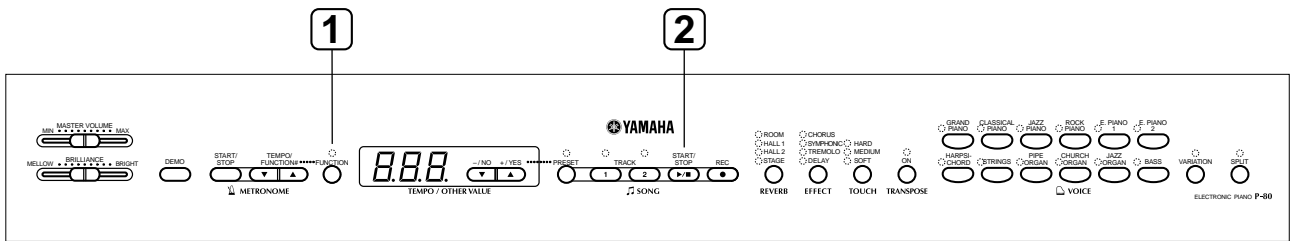
再生OFFのパートのボタンを押したままSONG【START/STOP】を押すと...
そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

パート再生のリセット(再設定)

...
新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

ピアノ50曲の部分練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」もいっしょにお使いいただけます。

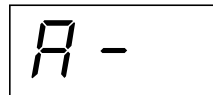


操作

1 フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

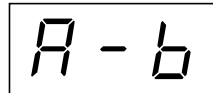
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 始まり(A点)が設定され、ディスプレイに **A-** と表示されます。

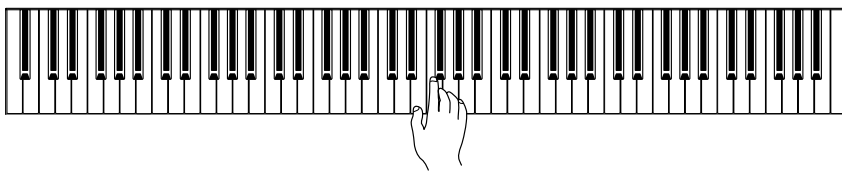


続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 終わり(B点)が設定され、ディスプレイに **A-b** と表示されます。



同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2 練習ストップ

A点、B点の設定を保持のまま一時練習をストップするときはSONG【スタート/ストップSTART/STOP】を押します。(この場合、再度SONG【スタート/ストップSTART/STOP】を押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときはもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

オールランド風 ALLとrnd(P18)のときはできません。

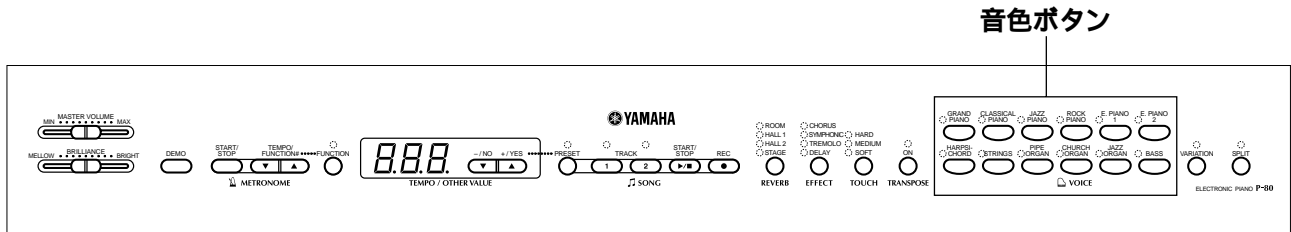
曲の先頭から繰り返しを始めたときは...

再生をスタートする前に【ファンクションFUNCTION】を押して始まり(A点)を設定します。

新しい曲を選ぶと...
A点、B点は自動的に解除されます。

音色を選んで弾く

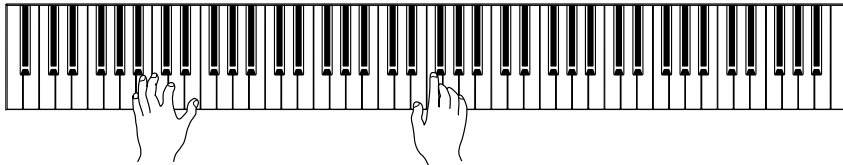
音色を選ぶ



操作

使いたい音色ボタンを押します。
⇒ ランプが点灯します。

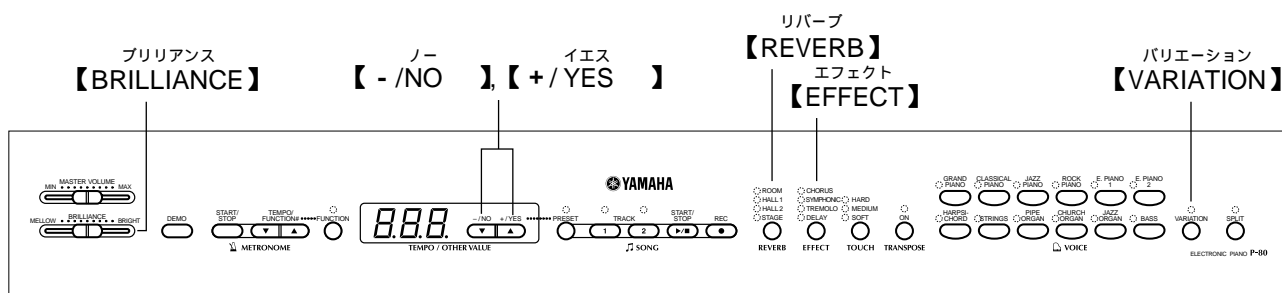
音量を調節しながら演奏してください。



音色の特長を掴むには...
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P17)

音に変化を付ける...【VARIATION】

ブリリアンス リバーブ エフェクト
【BRILLIANCE】 【REVERB】 【EFFECT】



バリエーション 【VARIATION】

違った表情の音にします。

操作

【VARIATION】を押すごとにON/OFFが切り替わります。

⇨ ランプが点灯したときがONです。

基本設定...OFF

ブリリアンス 【BRILLIANCE】

音質を調節します。BRIGHTにするほど明るく鋭い音になり、MELLOWにするほど柔らかくまろやかな音になります。

【BRIGHT】にすると、音量が少し大きくなりますので、【MASTER VOLUME】が上がっていると、音が歪むことがあります。この場合、【MASTER VOLUME】を少し下げてください。

リバーブ 【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ/かかり具合を変えすることもできます。

OFF： リバーブはかかりません。

ROOM： 部屋の中にいるような響きになります。

HALL 1： 小さいコンサートホールにいるような響きになります。

HALL 2： 大きいコンサートホールにいるような響きになります。

STAGE： ステージにいるような響きになります。

基本設定...

音色ごとにリバーブの種類(OFFも含む)が設定されています。

操作

【REVERB】を押すごとに種類が切り替わります。

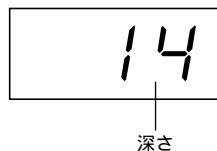
⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

リバーブの種類は【REVERB】を押して離れたときに切り替わります。【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り替わりません。

深さ かり具合 を変える

【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。

【REVERB】を押したまま【-/NO】または【+/YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

基本設定...

音色ごとに標準の深さが設定されています。

【EFFECT】

音に効果を付け加えます。

その深さ かり具合 を変えることもできます。

- OFF : エフェクトはかかりません。
- CHORUS : 広がり感を付けます。
- SYMPHONIC : 奥行き感を付けます。
- TREMOLO : 音量を揺らします。
- DELAY : 反響音を付けます。

操作

【EFFECT】を押すごとに種類が切り替わります。

⇒ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

基本設定...

音色ごとにエフェクトの種類 OFF も含む が設定されています。

エフェクトの種類は【EFFECT】を押して離れたときに切り替わります。【EFFECT】を押したまま深さを変更したときは、【EFFECT】を離しても種類は切り替わりません。

深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

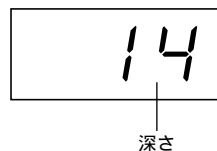
基本設定...

音色ごとに標準の深さが設定されています。

深さ かり具合 を変える

【EFFECT】を押している間はディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。

【EFFECT】を押したまま【-/NO】または【+/YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



タッチ

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

- HARD : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。
- MEDIUM : 標準的なタッチです。
- SOFT : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそりやすいタッチです。
- FIXED : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

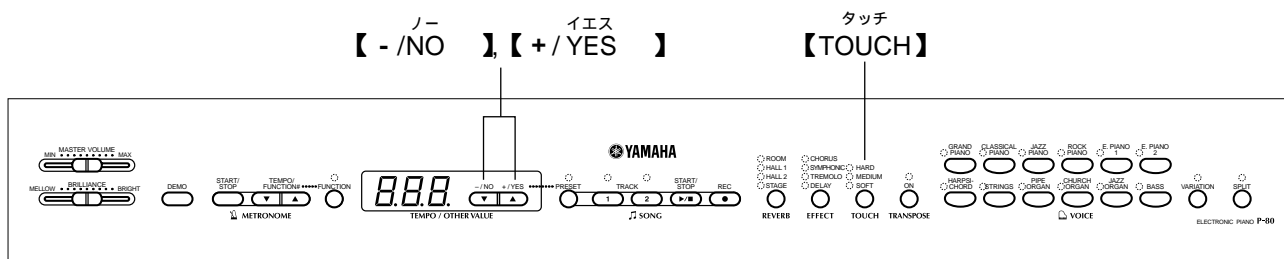
鍵盤の重さ自体は変わりません。

- HARD = 「力のいる、骨の折れる」
- MEDIUM = 「中間の、中位の」
- SOFT = 「やさしい、楽な」
- FIXED = 「固定された」

基本設定...

MEDIUM

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。

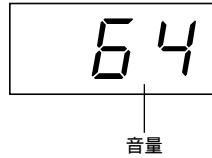


操作

タッチ
【TOUCH】を押すごとに種類が切り替わります。
フィックス
☞ 選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。

フィックス FIXEDの場合の音量を変える

フィックス
FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)
タッチ
【TOUCH】を押している間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。
タッチ ノー イエス
【TOUCH】を押したまま【- / NO】または【+ / YES】を押すと、音量を示す値(1 ~ 127、基本設定 = 64)が変わります。



1: 最小音量 ~
127: 最大音量

フィックス
FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

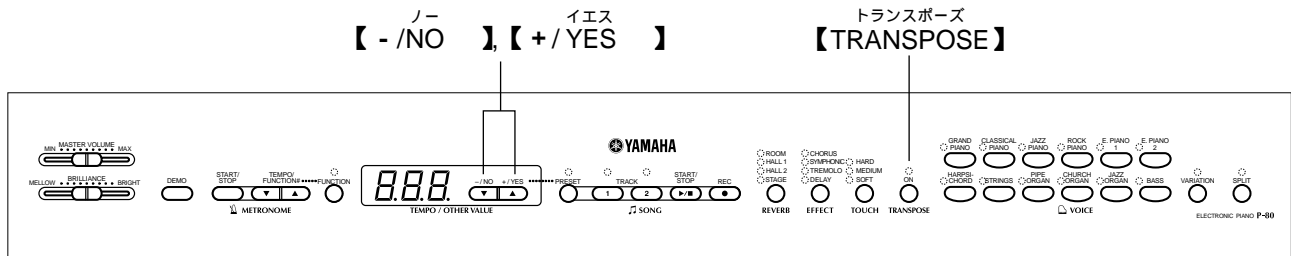
タッチの種類は、タッチ
【TOUCH】を押して離れたときに切り替わります。
タッチ
【TOUCH】を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、
タッチ
【TOUCH】を離しても種類は切り替わりません(フィックスのままとなります)。

トランスポーズ

【TRANSPOSE】

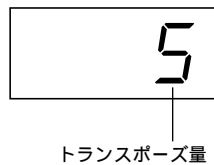
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりします。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

トランスポーズ
TRANSPOSE: 移調する
移調: 曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。



操作

トランスポーズ
【TRANSPOSE】を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。
トランスポーズ ノー イエス
【TRANSPOSE】を押したまま【- / NO】または【+ / YES】を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12 ~ 0 ~ 12、基本設定=0)が変わります。



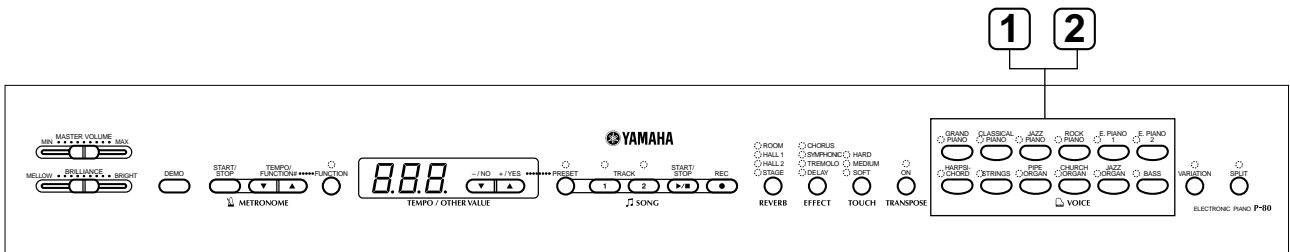
トランスポーズ量...
-12: -12半音(-1オクターブ)
0: 標準音程
12: 12半音(+1オクターブ)

トランスポーズをかけた場合の発音域について...
トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

トランスポーズ
【TRANSPOSE】のランプは、【TRANSPOSE】を押している間点灯しますが、トランスポーズ量を0以外に設定したときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。
トランスポーズ
0以外に設定したあとは、【TRANSPOSE】を押すごとに、トランスポーズのON/OFFを切り替えることができます。

「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)

2種類の音色を混ぜて使います。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりできます。



操作

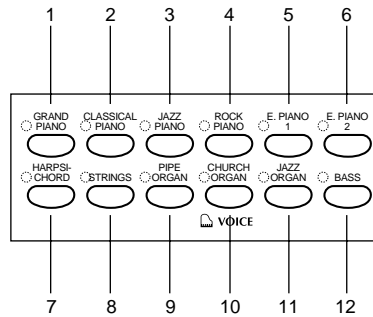
1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(=1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります (もう一方は第2音色)。

優先順位



デュアルでのいろいろな設定が「ファンクションF3 (P37)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

【STRINGS】の【VARIATION】は音の立ち上がりの遅いストリングス音色です。これをデュアルで片方の音色に使うと、独特の効果が出ます。

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

デュアルとスプリット...

デュアルとスプリット(P26)を同時に使うことはできません。

デュアルのときの【VARIATION】...

両方または片方の音色の【VARIATION】がONになっているときにランプが点灯します。両音色ともOFFの場合には消灯します。その後【VARIATION】を押すごとに両音色ともON、両音色ともOFFを切り替えることができます。(片方だけONにしたい場合は、デュアルモードに入る前に音色ごとに【VARIATION】のON/OFFを設定しておく必要があります。)

デュアルのときの【REVERB】...

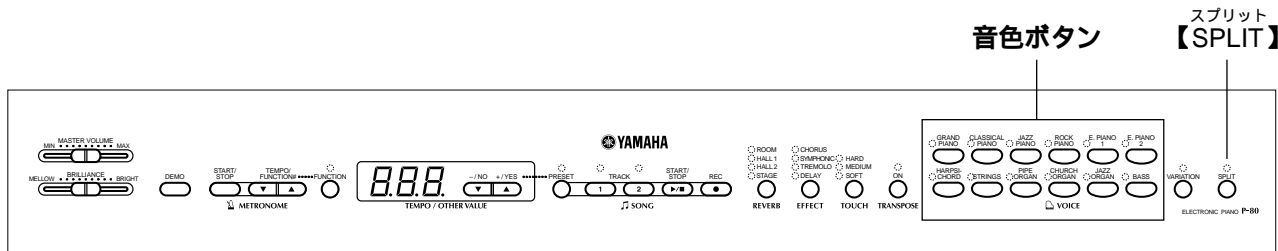
第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(OFFの場合は第2音色のものになります。)深さの調節(【REVERB】を押したまま【-/NO】+【YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

デュアルのときの【EFFECT】...

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF3 (P37)」で音色ごとに任意に設定することもできます。パネルでの深さの調節(【EFFECT】を押したまま【-/NO】+【YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

「スプリット」で弾く(鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く)

88個の鍵盤を左右の領域に分け、別々の音色で演奏します。



操作

1 スプリットモードに入る

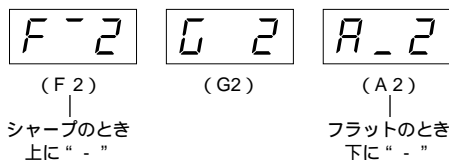
- スプリット
【SPLIT】を押します。
- ⇒ ランプが点灯します。
- ⇒ この時点で、左側音色に基本設定の音色【BASS】が選ばれます。

スプリットでのいろいろな設定が「ファンクションF4 (P38)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 スプリットポイント(2音色の境め)を決める

- スプリット
【SPLIT】を押している間はディスプレイにスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。
- スプリット
【SPLIT】を押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

スプリットポイントの鍵盤名の表示の例



スプリットポイントの基本設定は「F#2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。

3 右側の音色を決める

演奏したい音色ボタンを押します。

4 左側の音色を決める

スプリット
【SPLIT】を押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。(【SPLIT】を押している間は左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

5 スプリットモードを抜ける

- スプリット
【SPLIT】を押します。
- ⇒ ランプが消灯します。

スプリットとデュアル...

スプリットとデュアル(P25)を同時に使うことはできません。

スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

スプリットポイントがファンクションF4 (P38)でも設定できます。

スプリットのときの

【VARIATION】...

音色ごとに【VARIATION】のON/OFFが設定できます。通常の状態では、パネルの音色ボタンは右側の音色の状態を示します。(右側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、【VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

スプリット
【SPLIT】を押している間は、パネルの音色ボタンは左側の音色の状態を示します。(左側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、【VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

スプリットのときの【REVERB】...

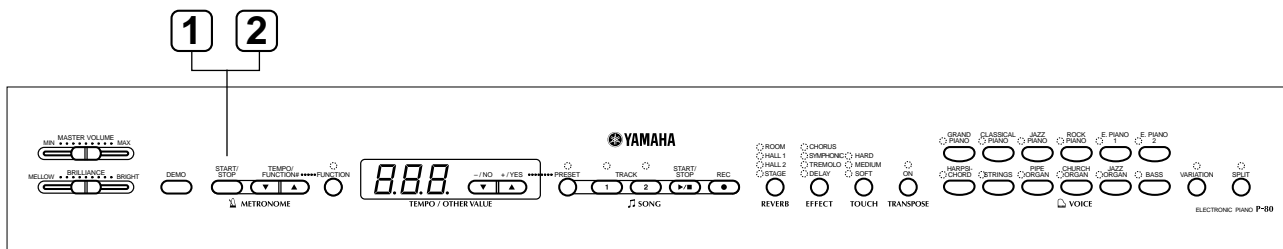
右側の音色のリバーブの種類が優先されます。(OFFの場合は左側の音色のものになります。)深さの調節【REVERB】を押したまま【-/NO】+【YES】を押す)は、右側の音色にだけ影響します。

スプリットのときの【EFFECT】...

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF4 (P38)」で音色ごとに任意に設定することもできます。パネルでの深さの調節(【EFFECT】を押したまま【-/NO】+【YES】を押す)は、右側の音色にだけ影響します。

METRONOMEを使う

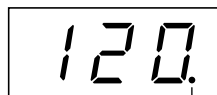
P-80は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。お使いください。



操作

1 メトロノームを鳴らす

メトロノーム スタート/ストップ
METRONOME【START/STOP】を押します。
⇒ メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

テンポ/ファンクション
【TEMPO/FUNCTION# , 】を押すとテンポの値(32~280(1分間の拍数)、基本設定=120)が変わります。

拍子の設定

メトロノーム スタート/ストップ
METRONOME【START/STOP】を押している間はディスプレイに拍子が表示されます。
メトロノーム スタート/ストップ
METRONOME【START/STOP】を押したまま【- / NO】または【+ / YES】を押すと、拍子(0、2、3、4、6、基本設定=0(無拍子))が変わります。



拍子

メトロノームの音量は...
ファンクション(P39)で設定できます。

2 メトロノームを止める

メトロノーム スタート/ストップ
METRONOME【START/STOP】を押します。
⇒ メトロノームが止まります。

演奏の録音(記録)

P-80の録音機能を使ってご自分の演奏を録音する方法を説明します。

P-80の録音では、

- 2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。
- 録音後、音色やテンポ、効果などを変更できます。
- 録音後、再生させながら演奏することができます。

「録音」と「記録」...

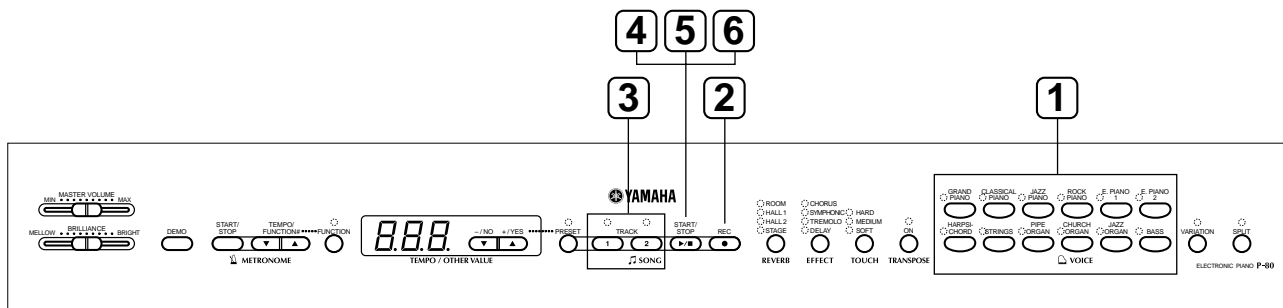
カセットテープに録音するのとP-80のメモリーに録音(記録)するのとは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、P-80のメモリーでは音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで...」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。P-80のメモリーでは、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

メモリーとは...

録音データやいろいろな設定が記録されるP-80本体内部の記録装置のことです。

録音の手順(1つのトラックへの録音)



操作

ノート 録音済みのトラックに再録音すると...


再録音するトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

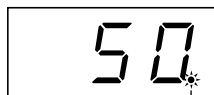
1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。

2 録音モードに入る

レコード【REC】を押します。

⇒ トラックボタン【1】または【2】のランプが赤く点灯します。ディスプレイにP-80の記憶残容量の数値(キロバイト)が表示されます。また、右端の点「」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

録音を中止する場合は、もう一度レコード【REC】を押します。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは...

録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは...

P-80に録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、50KB(およそ10,000音符分)となります。

メトロノームを使う...

【METRONOME】を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

3 録音トラックを選ぶ

2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。

【1】または【2】で録音するトラックを選びます。

□> ランプが赤く点灯します。

4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、SONG【ソングSTART/STOP】を押すと録音がスタートします。

□> ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



5 録音をストップする

SONG【ソングSTART/STOP】または【レコードREC】を押します。

□> 録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されます。)

6 録音した演奏を聞いてみる

SONG【ソングSTART/STOP】を押すと、今録音した演奏が再生されます。もう一度SONG【ソングSTART/STOP】を押すと、再生が止まります。

録音中にメモリーの記憶残容量が少なくなってきた場合...

録音中のトラックのランプが赤く点滅します。そして記憶残容量がなくなると画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

トラックのデータの削除...

SONG【ソングSTART/STOP】で録音をスタートし、何もせずSONG【ソングSTART/STOP】で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

録音し直す場合

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す
先に録音したときと設定を変えたい場合に行ってください。

2 再び録音モードに入る
再び【レコードREC】を押します。
□> 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、上記「4」以降の手順に従って録音します。

■ 続いて2つめのトラックへ録音する場合

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

- 1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。
- 2 再び録音モードに入る
再び【REC】^{レコード}を押します。
▷ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。
- 3 録音トラックを選ぶ
今録音したトラックと違う方のトラックを選びます。
▷ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)
今録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

このあと、前記「4」以降の手順(P29)に従って録音します。

今録音したトラックのデータの再生をOFFにして録音するには

…
再び録音モードに入る前(手順2の前)に、今録音したトラックのボタンを押します。

緑のランプが消灯します。
今録音したトラックとは別の曲を録音したい場合などに便利です。

■ 録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。以下にそれを示します。
下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と「2つのトラックで共通に録音されるデータ」があります。

トラックごとに録音されるデータ

- ・ ノートデータ(弾いた音)
- ・ 音色
- ・ ペダルのON/OFF^{オン/オフ}
- ・ 【VARIATION】のON/OFF^{バリエーション オン/オフ}
- ・ 【REVERB】の深さ^{リバーブ}
- ・ 【EFFECT】の深さ^{エフェクト}
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス
- ・ デュアルデチューン
- ・ デュアルオクターブシフト
- ・ スプリットの音色
- ・ スプリット音量バランス
- ・ スプリットオクターブシフト

2つのトラックで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ 【REVERB】の種類^{リバーブ}(OFFも含む)
- ・ 【EFFECT】の種類^{エフェクト}(OFFも含む)

録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

初期値とは…
曲の先頭に記録されるデータです。

■ 初期値の変更

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。変更できるデータは前記「録音(記録)されるデータの種類」のリストをご参照ください。

- 1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。
↳ ランプが赤く点灯します。2つのトラックで共通に録音されるデータはどちらのトラックを選んでも変更されます。)
- 2 パネルを操作して初期値を変更します。
ここで鍵盤やSONG【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。
- 3 【REC】を押して録音モードを抜けます。
ここでSONG【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

たとえば録音した^{エレクトリックピアノ1}E. PIANO 1の音色を【E. PIANO 2】に変更する場合...
操作1のあと、操作2で【E. PIANO 2】^{エレクトリックピアノ2}を押し、操作3の【REC】^{レコード}を押して完了です。

初期値変更の中止...
操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

■ 録音上の注意

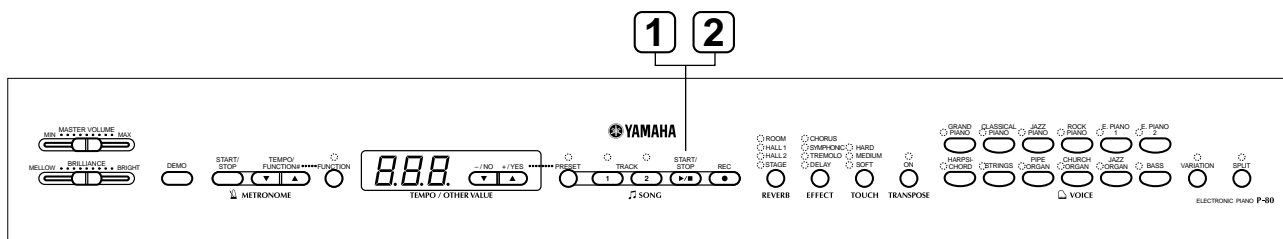
- ・ 録音した曲は、電源OFF後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的に緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも1週間以内に電源をONにしてください。また、P-80にMIDIデータファイラー-MDF3などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」(P41))
- ・ 録音する際、レコードモードに入る前にあらかじめトラックボタンを押してみて緑に点灯するかどうか確認すると安心です。緑に点灯する場合は、そのトラックに録音済みのデータがあり、再録音すると、そのトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

録音した曲の再生

録音機能 (P28~31) を使って録音した曲を再生します。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

再生の基本手順

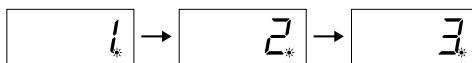


操作

1 再生スタート

ソング スタート/ストップ
SONG【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、再生音色と手弾き音色は連動しません。再生音色は録音された音色に、手弾き音色は選ばれているパネル音色になります。

テンポの調節

テンポ/ファンクション
再生スタート前または再生中に、【TEMPO/FUNCTION#】を押してテンポを変更できます。【】を同時に押すと録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

2 再生ストップ

ソング スタート/ストップ
曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは...再生できません。

録音データがないときはソング スタート/ストップ
SONG【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の片パートを録音し、それを再生しながら自分でもう1つのパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

再生といっしょに外口ノームを使うこともできます。この場合、再生ストップすると、外口ノームも同時に止まります。

リバーブ エフェクト
再生中の【REVERB】と【EFFECT】...

リバーブ エフェクト
状況に応じて1つの【REVERB】の種類、1つの【EFFECT】の種類が優先されます。

再生に関する便利な機能

トラックの再生ON/OFF

録音後は、録音したデータが入っているトラックボタン(【1】【2】の片方または両方)のランプが緑に点灯します。

ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。

トラックの再生ON/OFFの切り替えは...

再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生OFFにした場合は、再生スタートできません。(または、再生がストップします。)

オフ
再生をOFFにしたパートの音量は...

録音した曲の再生の場合は、再生をOFFにしたトラックの音量は0に固定です。

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生^{オン}のトラックのボタン(【1】または【2】)を押したままSONG【START/STOP^{スタート/ストップ}】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

□> ディスプレイの右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。
再生しながら自分も弾くときに便利です。

再生OFF^{オフ}のトラックのボタンを押したままSONG【START/STOP^{スタート/ストップ}】を押すと...

そのトラックの再生がON^{オン}になると共に、シンクロスタート待機状態になります。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

ファンクション

P-80をお使いいただく上で各種の設定を、基本設定(工場出荷時の設定)以外のご自分の使いやすい設定に変更する機能です。

そのほかに、各種の便利な機能や応用的な機能が、ファンクションの中にまとめられています。

ファンクションには、大項目が9個(F1～F9)あります。

大項目の中には、小項目をいくつか持つものもあります。

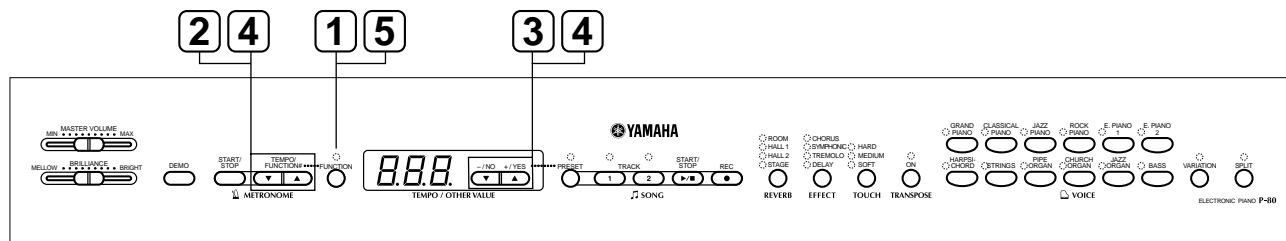
ファンクション一覧表

大項目	小項目	ファンクション番号	ページ
音程の微調整	-	F1	36
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	36
	基音の設定	F2.2	37
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	37
	2音色の音程を微妙にずらす設定	F3.2	37
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	37
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	37
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	37
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	37
	基本設定に戻す操作	F3.7	38
スプリットの諸設定	スプリットポイントの設定	F4.1	38
	2音色の音量バランスの設定	F4.2	38
	右側音色のオクターブシフトの設定	F4.3	38
	左側音色のオクターブシフトの設定	F4.4	38
	右側音色のエフェクトの深さの設定	F4.5	38
	左側音色のエフェクトの深さの設定	F4.6	38
	ダンパーペダルの有効域の設定	F4.7	38
	基本操作に戻す設定	F4.8	38
共鳴効果の深さの設定	-	F5	39
メトロノーム音量の設定	-	F6	39
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	-	F7	39
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	F8.1	40
	MIDI受信チャンネルの設定	F8.2	40
	ローカルコントロールON/OFFの設定	F8.3	40
	プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定	F8.4	40
	コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定	F8.5	40
	MIDI送信データにトランスポーズをかける設定	F8.6	40
	セットアップデータのMIDI送信	F8.7	40
	録音データのバルク送信	F8.8	41
バックアップON/OFFの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F9.1	41
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F9.2	41
	音程、音律関連項目のバックアップ設定	F9.3	41
	共鳴効果の深さのバックアップ設定	F9.4	41

■ ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



操作

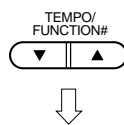
1 ファンクションモードに入る

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ **F**** になります。

2 大項目を選ぶ

テンポ/ファンクション
【TEMPO/FUNCTION# , ▲】でファンクションの大項目
(F1~F9)を選びます。



3 【-/NO】【+ /YES】で...

小項目がない場合： 直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合： 【+ /YES】で小項目を選択する操作に進みます。

4 これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

テンポ/ファンクション
【TEMPO/FUNCTION# , ▲】
大項目または小項目の選択に使います。

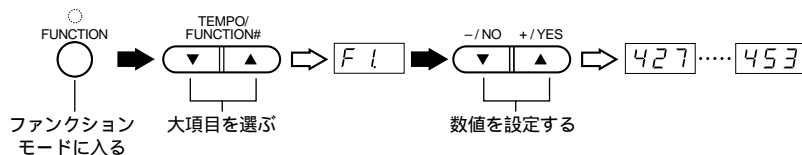
【-/NO】【+ /YES】

大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。

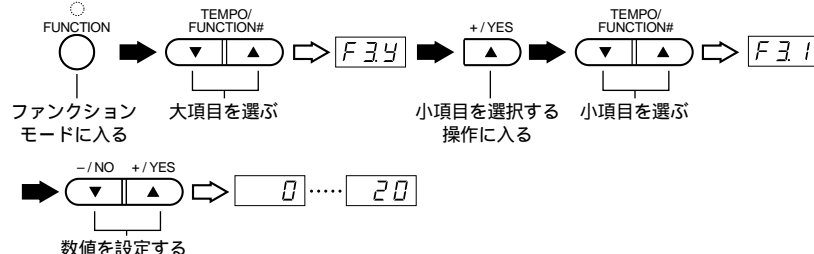
【-/NO】【+ /YES】を同時に押すと基本設定 (=工場出荷時の設定)に戻る場合があります。

ノート 項目を選んだあと、最初に【-/NO】【+ /YES】を押したときは、現在の設定状態 (設定値) が表示されます。

操作例1(F1.「音程の微調整」)



操作例2(F3.1(デュアルの2音色の音量バランスの設定))



5 操作が完了したら...

ファンクション
【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、ディスプレイがテンポ表示に戻ります。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときと、曲の再生中、録音中は...
ファンクションモードに入ることはできません。

各ファンクション項目の説明

F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときなど、ほかの楽器と音程を正確に合わせたいときなどに使用します。

① ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

② **【-/NO】** **【+/YES】** で、A3の鍵盤の音程をHzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

⇒ **427** ... **440** ... **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440.	440.0
440.	440.2
440.	440.4
440.	440.6
440.	440.8

設定範囲: 427.0 ~ 453.0 (Hz)

基本設定: 440.0 (Hz)

・ Hzとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

ノート 鍵盤を使った設定方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

音程を下げる(約0.2Hz単位)...

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

基本設定に戻す...

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

・ 鍵盤と鍵盤名の対応については、P13「各部の名前」をご参照ください。

ノート 約1Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

約1Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【-/NO】** **【+/YES】** を押す。

基本設定に戻す...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【-/NO】** **【+/YES】** を同時に押す。

(上記操作中、ディスプレイがHz表示 **427** ... **453**) に切り替わります。操作後元のディスプレイに戻ります。)

F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律 (Equal Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure Temperament Major)

純正律(短調) (Pure Temperament minor)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

キルンベルガー音律 (Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F24** を選びます。

2 **【+/YES ^{イエス}】** を押して確定し、**【TEMPO/FUNCTION# ^{テンポ/ファンクション} _{ノー} ^{イエス}】** で以下の小項目を選び、**【-/NO ^{ノー}】** **【+/YES ^{イエス}】** で設定します。

小項目

F21 音律(調律法)の種類の設定

- 設定範囲: 1..... 平均律
2..... 純正律(長調)
3..... 純正律(短調)
4..... ピタゴラス音律
5..... 中全音律
6..... ヴェルクマイスター音律
7..... キルンベルガー音律

基本設定: 1..... 平均律

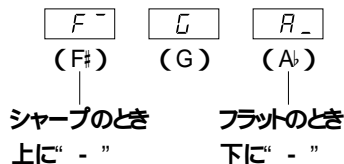
F22 基音の設定

平均律以外のおときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, E^b, E, F, F#, G, A^b, A, B^b, B

基本設定: C

・ 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F34** を選びます。

2 **【+/YES ^{イエス}】** を押して確定し、**【TEMPO/FUNCTION# ^{テンポ/ファンクション} _{ノー} ^{イエス}】** で以下の小項目を選び、**【-/NO ^{ノー}】** **【+/YES ^{イエス}】** で設定します。

ノート デュアルモードでないときには...

①での表示が **F3-** になり、**【+/YES ^{イエス}】** を押しても反応しません。
ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲: -10~0~10(+方向で第1音色の音程が高くなる。-方向で第2音色の音程が高くなる。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1, 0, 1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。
エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからはエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

・ 「第1音色」「第2音色」については、P25をご覧ください。

F37 基本設定に戻す操作

【+/YES】を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの[F3*]に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す⇨ランプ消灯)が必要です。

F4. スプリットの諸設定

スプリットモードでの各種設定をします。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 スプリットモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 [F44] を選びます。

2 【+/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION#】で以下の小項目を選び、【-/NO】【+/YES】で設定します。

ノート スプリットモードでないときは...

①での表示が[F4-]になり、【+/YES】を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ってからではスプリットモードに入ることができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからスプリットモードに入ってください。

小項目

F41 スプリットポイントの設定

設定範囲: 全鍵盤

基本設定: F#2

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれません。

・【-/NO】【+/YES】の代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。

・ファンクションモードでないとき、【SPLIT】を押しながら鍵盤を押しても設定できます。(P26)

・スプリットポイントの鍵盤名表示の例

[F#2] [G2] [A#2]
(F#2) (G2) (A#2)

シャープのとき
上に“-”

フラットのとき
下に“-”

F42 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近付くほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。

F43 右側音色のオクターブシフトの設定

F44 左側音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1、0、1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。

F45 右側音色のエフェクトの深さの設定

F46 左側音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。

エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

F47 ダンパーペダルの有効域の設定

設定範囲: ALL(両音色) 1(右側の音色) 2(左側の音色)

基本設定: ALL

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか(ALL)、右側音色にだけかけるか(1)、左側音色にだけかけるか(2)を設定します。

F48 基本設定に戻す操作

【+/YES】を押すと上記すべての設定がその音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

【SPLIT】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの[F4*]に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す⇨ランプ消灯)が必要です。

F5. 共鳴効果の深さの設定

ピアノ音色でダンパーペダルを踏んだときに加わる響板や弦の共鳴効果の深さを設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目 **F5** を選びます。
- 2 【-/NO】【+/YES】で設定します。
設定範囲: 0 ~ 20
基本設定: 12

F6. メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目 **F6** を選びます。
- 2 【-/NO】【+/YES】で設定します。
設定範囲: 1 ~ 20
基本設定: 10

ノート ショートカット操作...

メトロノーム スタート/ストップ ファンクション
METRONOME【START/STOP】を押したまま【FUNCTION】
を押すと直接ファンクションモードの **F6** に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作
(【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯)が必要です。

F7. ピアノ50曲(プリセットソング)の パート再生OFF時の音量設定

P-80に入っているピアノ50曲の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目 **F7** を選びます。
- 2 【-/NO】【+/YES】で設定します。
選択範囲: 0 ~ 20
基本設定: 5

F8. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての簡単なご紹介が「MIDIについて」
(P49)にあります。ご参照ください。

ノート

MIDI端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチをMIDIに設定してください。
TO HOST端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを、接続するコンピューターの種類に応じて、正しく設定してください。
(P43 ~ 44)
ここでのMIDIに関する設定は、TO HOST端子での信号の入出力に対しても有効です。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目 **F84** を選びます。
- 2 【+/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION#】で以下の小項目を選び【-/NO】【+/YES】で設定します。

小項目

F8.1 MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1 ~ 16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでP-80からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1 ~ 16、OFF(送信しない)
基本設定: 1

- ・デュアルのときの第2音色、スプリットのときの左側音色は...

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルに固定です。(第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。

- ・デモ曲/ピアノ50曲の再生データ、録音した曲の再生データはMIDI送信されません。

F8.2 MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1 ~ 16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでP-80がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: ALL、1&2、1 ~ 16
基本設定: ALL

・ ALL^{オール}の場合は...

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。
この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、P-80で受信して再生させることができます。

・ 「1 & 2」の場合は...

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、P-80本体で再生することができます。

- ・ P-80では、P-80本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。
- ・ デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モード中は、MIDI受信を行いません。

F83 ローカルコントロールON/OFF^{オン/オフ}の設定

通常、P-80の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールON^{オン}」と呼ばれます。「ローカルコントロールをOFF^{オフ}」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもP-80からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏情報はMIDI送信されますので、P-80では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたときなどに、ローカルコントロールをOFFにします。

選択範囲: On/OFF^{オン/オフ}
基本設定: On^{オン}

F84 プログラムチェンジ送受信ON/OFF^{オン/オフ}の設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。
たとえばP-80からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(P-80のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをP-80が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はOn^{オン}に、連動させたくない場合は、OFF^{オフ}にします。

・ P-80のプログラムチェンジナンバーは...

各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP53をご覧ください。

選択範囲: On/OFF^{オン/オフ}
基本設定: On^{オン}

F85 コントロールチェンジ送受信ON/OFF^{オン/オフ}の設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダル^{ミディ}の操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばP-80からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(P-80でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをP-80が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はOn^{オン}に、できないほうが便利な場合は、OFF^{オフ}にします。

・ P-80がコントロールチェンジとして扱える情報...

「MIDIデータフォーマット」のP53をご覧ください。

選択範囲: On/OFF^{オン/オフ}
基本設定: On^{オン}

F86 MIDI送信データにトランスポーズをかける設定^{ミディ}

MIDI送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲: -12 ~ 0 ~ 12(半音単位)
基本設定: 0

F87 セットアップデータのMIDI送信^{ミディ}

P-80のパネル設定状態のセットアップデータをMIDI接続したMIDIデータファイラーMDF3やシーケンサーなどに送信します。

MDF3や外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップデータを送信して記録しておくと、再生しながらの演奏の際、便利です。

・ セットアップデータとは...

P-80のパネル設定状態一式のデータです。

操作

送信するパネル設定を作ります。

▶ シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。

▶ ファンクションモードに入って **F87** を選びます。

▶ **[+ / YES]** を押すと送信が実行されます。

▶ **[End]**

・送信したデータの受信方法...

データを送信した機器とP-80をMIDI接続します。
▶ データを送信した機器側で送信操作をします。
□ 自動的にP-80がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

・セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F88 録音データのバルク送信

MIDIデータファイラーMDF3やシーケンサーなどをP-80に接続し、P-80で録音したデータをMIDIのバルクデータとして送信し、ディスクに保存しておくことができます。

保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器からP-80本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

・バルクデータとは...

MIDIで、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

操作

P-80で演奏を録音します。

▶ MIDIデータファイラーMDF3などとMIDI接続し、MDF3などの側のバルクデータ受信準備を整えます。

▶ ファンクションモードに入って **F88** を選びます。

▶ **[+/YES]** を押すと送信が実行されます。

□ **[End]**

・録音モードのときと再生中は...

バルクデータ送信はできません。

・バルクデータ送信中は...

手弾き音のデータ及びパネル情報はMIDI送信されません。また、MIDI受信を行いません。

・送信したデータの受信(送り戻し)方法...

データを送信した機器とP-80をMIDI接続します。
▶ データを送信した機器側で送信操作をします。
□ 自動的にP-80がそのデータを受信し、本体のメモリーにデータが入ります。(このとき、本体のメモリーにあったデータは消されます。)

このあと、通常の再生操作で再生できます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

・ファンクションモードのとき、および録音モードのときと再生中は...

バルクデータ受信はできません。

・バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F9. バックアップON/OFFの設定

・バックアップとは...

メモリー(P-80本体内部の記憶装置)に記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。
バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。
バックアップをOFFにしておくと、電源をOFFにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ります。(基本設定一覧表がP52に掲載されています。)

・バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのON/OFFを設定します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F94** を選びます。

2 **[+/YES]** を押して確定し、**[TEMPO/FUNCTION#]** で以下の小項目を選び、**[-/NO]** **[+/YES]** で設定します。

小項目

F91 音色関連項目のバックアップ設定

F92 MIDI関連項目のバックアップ設定

F93 音程、音律関連項目のバックアップ設定

F94 共鳴効果の深さの設定

設定範囲: On/OFF

基本設定: OFF(すべてのグループ)

ただし「メモリーに録音された演奏データ」ここでのバックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

・各小項目の内容

F9.1 音色関連項目のバックアップ設定

- ・ 音色選択
- ・ デュアルモードのON/OFF^{オン/オフ}と音色
- ・ デュアルの諸設定(**F3.*** の設定内容) (音色の組み合わせごと)
- ・ スプリットモードのON/OFF^{オン/オフ}と音色
- ・ スプリットの諸設定(**F4.*** の設定内容) (音色の組み合わせごと)
- ・ リバーブの種類と深さ (音色ごと)
- ・ エフェクトの種類と深さ (音色ごと)
- ・ バリエーションのON/OFF^{オン/オフ} (音色ごと)
- ・ タッチの設定(**FIXED** 時の音量も含む)^{フィックス}
- ・ メトロノームの拍子と音量(音量は **F5** の設定内容)
- ・ ピアノ50曲(**プリセットソング**)のパート再生OFF^{オフ}時の音量設定(**F7** の設定内容)

F9.2 ^{ミディ}MIDI関連項目のバックアップ設定

MIDI機能の諸設定(**F8.*** の設定内容)

(**F8.7** **F8.8** を除く)

F9.3 音程、音律関連項目のバックアップ設定

- ・ トランスポーズの設定
- ・ 音程の微調整(**F1** の設定)
- ・ 音律(調律法)の種類と基音の設定(**F2.*** の設定内容)

F9.4 共鳴効果の深さ設定のバックアップ設定

- ・ **F5** の設定内容

基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すには...

いったん電源をOFF^{オフ}にし、右端の鍵盤(**C7**)を押したまま電源をON^{オン}にします。

この操作でいつでも基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すことができます。(ここでの「バックアップON/OFF^{オン/オフ}の設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体のメモリーに録音された演奏データも消えます。〔基本設定一覧表がP52に掲載されています。〕)

パーソナルコンピューターとの接続

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、P-80の【TO HOST】^{トゥーホスト} またはMIDI^{ミディ}端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

・ P-80を音源として使う場合、P-80にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

P-80とコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

1. P-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子を使った接続方法
2. P-80のMIDI^{ミディ}端子を使った接続方法

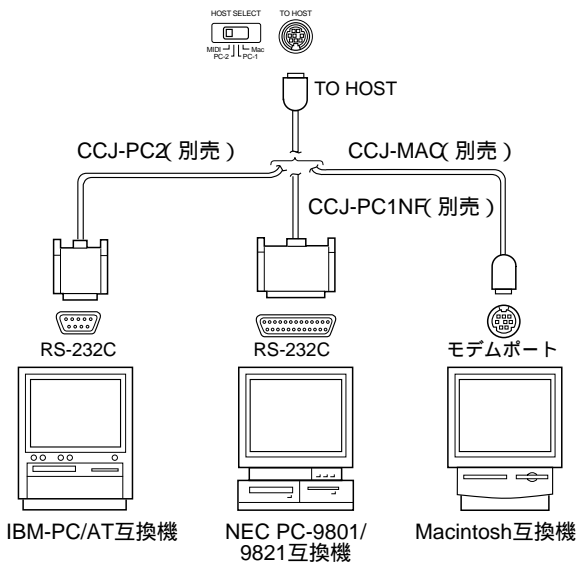
1. P-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポート（RS-232C端子やRS-422端子）とP-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子を接続します。

この方法では、P-80がMIDI^{ミディ}インターフェース機器（コンピューターとMIDI^{ミディ}機器の仲立ちをする機器）の役割も果たすため、専用のMIDI^{ミディ}インターフェース機器は不要です。

接続方法

コンピューターのシリアルポート（RS-232C端子やRS-422端子）を、専用のシリアルケーブルで、P-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子に接続します。



ウィンドウズ
Windows 95/98をご使用のお客様へ
コンピューターのシリアルポートとP-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDI^{ミディ}ドライバー（YAMAHA CBX Driver [Windows 95/98対応]）をコンピューターにインストールする必要があります。
Windows 95/98対応のドライバーは、インターネットのヤマハホームページ（XGライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/xg>）から、ダウンロードして入手することができます。

接続するシリアルケーブルの種類

接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

- マッキントッシュ
・ Macintosh互換機：YAMAHA CCJ-Mac、または同等品
- エニシー ビンシー
・ NEC PC-9801/9821互換機：
YAMAHA CCJ-PC1NF、または同等品
- アイビーエム ビンシー/エーティ
・ IBM-PC/AT互換機：YAMAHA CCJ-PC2、または同等品
- ・ パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので、各シリアルケーブルの内部配線図（P44）とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

P-80のHOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、P-80のHOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチを切り替えます。

- マッキントッシュ
・ Macintosh互換機：
【Mac】（ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用）
- エニシー ビンシー
・ NEC PC-9801/9821互換機：
YAMAHA CBX-T3 Serial Driver（Windows 3.1対応をお使いの場合）
【PC-1】（ボーレート=31,250bps）
YAMAHA CBX Driver（Windows 95/98対応をお使いの場合）
【PC-2】（ボーレート=38,400bps）
- アイビーエム ビンシー/エーティ
・ IBM-PC/AT互換機：
【PC-2】（ボーレート=38,400bps）

ノット P-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子を使用する場合は、最初に、P-80とコンピューターの電源を切った状態でケーブルを接続し、その後コンピューター P-80の順番で、電源を入れてください。

ノット P-80の【TO HOST】^{トゥーホスト}端子を使用しない場合は、必ず【TO HOST】^{トゥーホスト}端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、P-80が正常に動作しないことがあります。

ノット ディスプレイに「H5F」と表示された場合は、コンピューターの電源が切れているか、ケーブルが正しく接続されていない、または、HOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチが正しく設定されていないか、コンピューター側のドライバーやMIDI^{ミディ}アプリケーションが正しく機能していません。この場合は、いったんP-80とコンピューターの電源を切り、ケーブルの接続、HOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチの設定を確認してください。その後、コンピューター P-80の順番で電源を入れ直し、コンピューター側のドライバーやMIDI^{ミディ}アプリケーションが正しく機能しているか確認してください。

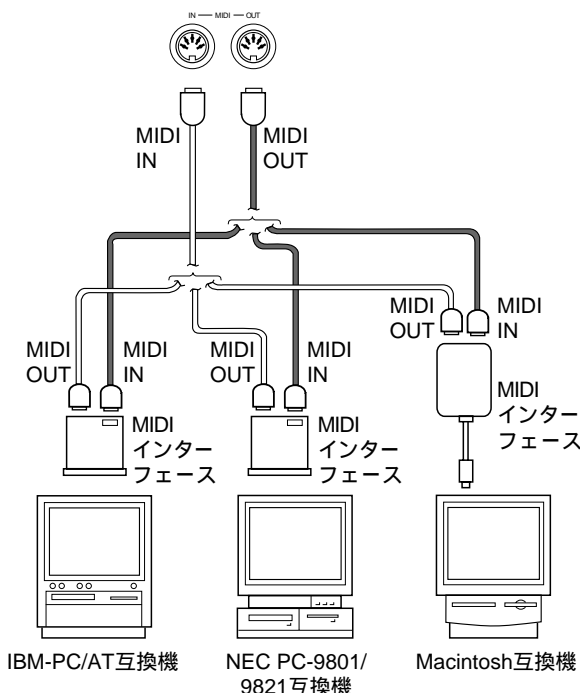
ノート 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するポーレート^{ホスト}の位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。

ノート HOST SELECTスイッチを【PC-2】**PC-1**【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子（【IN】**OUT**）共^{ミディ}は使えません。（MIDIデータを送受信しません。）逆に、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子（【IN】**OUT**）共^{ミディ}が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。（データを送受信しません。）

2. P-80のMIDI端子を使った接続方法

接続方法

MIDIインターフェース機器を通じてP-80のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



P-80のHOST SELECTスイッチの設定

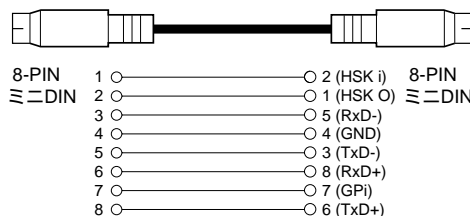
P-80のHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

ノート HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子（【IN】**OUT**）共^{ミディ}が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。（データを送受信しません。）逆に、HOST SELECTスイッチを【PC-2】**PC-1**【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子（【IN】**OUT**）共^{ミディ}は使えません。（MIDIデータを送受信しません。）

シリアルケーブルの内部配線図

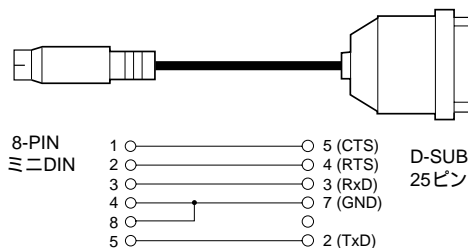
マッキントッシュ Macintosh互換機用

システムベリフェラル 8ケーブル(YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



エヌイーシー ビシー NEC PC-9801/9821互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 25ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



アイビーエム ビシーエーティ IBM-PC/AT互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 9ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC2または同等品)



プラグのピン番号

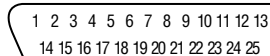
各プラグのピン番号は下記のとおりです。

オモテから見たピン番号

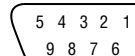
MINI DIN
8-PIN



D-SUB
25-PIN



D-SUB
9-PIN



・ パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので上記各シリアルケーブルの内部配線図とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
P-80の電源が入らない。	電源アダプターのプラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターのプラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P8)
【STANBY/ON ^{スタンバイオン} 】を押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
P-80から雑音が出る。	P-80の近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)。	P-80の近くでは携帯電話の電源を切ってください。P-80の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME ^{マスター ボリューム} 】/外部オーディオ機器の音量が下がっています。	【MASTER VOLUME ^{マスター ボリューム} 】/外部オーディオ機器の音量を上げてください。(P10)
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P40)
音が歪む。	【MASTER VOLUME ^{マスター ボリューム} 】/外部オーディオ機器の音量を上げすぎています。	【MASTER VOLUME ^{マスター ボリューム} 】/外部オーディオ機器の音量を、音が歪まないレベルまで下げてください。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

ノート ディスプレイに **5cn** が表示された場合は、P-80の内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

付 録

P-80をMDP10(「伴奏くん」と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

MDP10(「伴奏くん」)を使ってディスクソフトを楽しむ	P48
MIDIについて	P49
音色のご紹介	P50
デモ曲 曲名一覧表	P51
基本設定一覧表	P52
MIDIデータフォーマット	P53
MIDIインプリメンテーションチャート	P56
別売品のご紹介	P57
仕様	P57
索引	P58
保証とアフターサービス	P59

MDP10(「伴奏くん」)を使ってディスクソフトを楽しむ

- ・ MDP10とは---



スピーカー一体型のミュージックディスクソフト再生専用モジュールです。下記にご紹介するミュージックディスクソフトをはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。P-80と組み合わせて使うと、ディスクソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習ができます。

MDP10で再生できる主なヤマハ別売ディスクソフトのご紹介

- ・ 「ピアノソフト」
ピアノ演奏データのソフトです。
内外の一流ピアニストの演奏が収録されています。お手本にもなる正統派の演奏から、華麗なるアレンジによる演奏までお楽しみいただけます。
一部MDP10ではご利用いただけないタイトルもあります。
- ・ 「ピアノ アンサンブル」
メインのピアノ演奏パートと多音色のバックアンサンブルパートから成る演奏データソフトです。鑑賞するだけでなく、アンサンブルパートをバックにピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。
- ・ 「ピアノ アソシエ」
「ピアノアソシエ」は、テキストとオーケストラ伴奏データなどが入った専用ディスクソフトを活用するピアノレッスンメソッドです。MDP10でこの専用ディスクソフトを再生して、ピアノレッスンに活用することができます。
- ・ 「XGソングデータライブラリー」
ヤマハの音源フォーマット「XG」に準拠した曲データのディスクソフトです。多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。

Mumaについて

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭には設置されているMumaで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

上記およびその他のディスクソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

P-80とMDP10を組み合わせてディスクソフトを楽しむ方法

P-80とMDP10を組み合わせて使うと、下記のようなことができます。特別な接続は必要ありません。

ソフトを再生しながらP-80でアンサンブル演奏

MDP10で曲データの伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをP-80でご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。

ソフトを使って練習

- ・ 右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトを使うと、練習したいパートの再生をOFFにしてP-80で片手練習することができます。
- ・ 曲中のフレーズを設定してくり返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます。

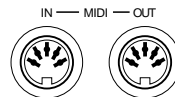
ミディ MIDI について

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) とは、MIDI 端子を備えた MIDI 機器間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI 機器間で MIDI データを送受信することにより、外部の MIDI 機器の演奏をコントロールしたり、外部の MIDI 機器から自機がコントロールされたりすることができます。

- MIDI では、演奏データや命令をデジタルデータ(数値に置き替えたデータ)で送受信します。
- ただし MIDI 機器でも、機種ごとに送受信できる MIDI データの内容が同じではないため、接続している MIDI 機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種での「MIDI インプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。P-80 の MIDI インプリメンテーションチャートは P56 に掲載されています。

MIDI 端子



MIDI【IN】: MIDI データを受信する端子です。
MIDI【OUT】: MIDI データを送信する端子です。

MIDI ケーブル

専用の MIDI ケーブルをご用意ください。

- ファンクションの MIDI 機能の諸設定(「F8 (P39 ~ 41) 」)で各種の MIDI 設定が行えます。
- MIDI についての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

音色のご紹介

GRAND PIANO(グランドピアノ)	豊かに広がるグランドピアノの音。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
CLASSICAL PIANO(クラシカルピアノ)	明るさを押さえたしっとりとしたピアノの音です。
JAZZ PIANO(ジャズピアノ)	明るく張りのあるピアノの音。アンサンブルの中でも引き立つ音です。
ROCK PIANO(ロックピアノ)	強いタッチの激しい音。ロックなどを弾くのに最適です。
E.PIANO 1(エレクトリックピアノ 1)	シンセサイザー-DXのエレピの音。弾いた瞬間の金属的な固い音が特徴的です。
E.PIANO 2(エレクトリックピアノ 2)	やわらかな音色のエレピの音。強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD(ハーpsiコード)	バロック音楽などでよく使われる楽器「ハーpsiコード」の音。「チェンバロ」ともいいます。
STRINGS(ストリングス)	大編成弦楽アンサンブルの音。 【 <small>バリエーション</small> VARIATION】を押すと、ピアノとのデュアルに最適な立ち上がりの遅い音になります。
PIPE ORGAN(パイプオルガン)	重厚なフルパイプオルガンの音。大聖堂を思わせるきらびやかな音です。
CHURCH ORGAN(チャーチオルガン)	賛美歌の伴奏などに使われる教会用の小さなオルガンの音。
JAZZ ORGAN(ジャズオルガン)	ジャズオルガンの音。【 <small>バリエーション</small> VARIATION】を押すと、ロータリースピーカーの効果を切り替えることができます。
BASS(ベース)	アップライトベースの音。ジャズやラテン音楽など幅広いジャンルの音楽が楽しめます。

デモ曲 曲名一覧表

デモ曲

音 色	曲 名	作曲者
GRAND PIANO(グランドピアノ)	幻想即興曲	F.F.Chopin
CLASSICAL PIANO(クラシカルピアノ)	エリーゼのために	L.v.Beethoven
JAZZ PIANO(ジャズピアノ)	オリジナル	-
ROCK PIANO(ロックピアノ)	オリジナル	-
E.PIANO 1(エレクトリックピアノ 1)	オリジナル	-
E.PIANO 2(エレクトリックピアノ 2)	オリジナル	-
HARPSICHORD(ハーpsiコード)	ガボット(フランス組曲3番より)	J.S.Bach
STRINGS(ストリングス)	アイネクライネナハトムジーク第3楽章	W.A.Mozart
PIPE ORGAN(パイプオルガン)	トリオソナタ第2番	J.S.Bach
CHURCH ORGAN(チャーチオルガン)	ノエール第1番	L.C.d'Aquin
JAZZ ORGAN(ジャズオルガン)	オリジナル	-
BASS(ベース)	オリジナル	-

基本設定一覧表

基本設定(=工場出荷時の設定)を一覧にしました。

		バックアップグループ
音色選択	GRAND PIANO	F9.1
デュアル機能	OFF	
スプリット機能	OFF	
スプリット左側音色	BASS	
リバーブの種類	音色ごと	
リバーブの深さ	音色ごと	
エフェクトの種類	音色ごと	
エフェクトの深さ	音色ごと	
タッチの種類	MEDIUM	
タッチがFIXEDのときの音量	64	
メロノーム	OFF	-
メロノームの拍子	(無拍子)	F9.1
テンポ	120	-
トランスポーズ	0	F9.3

「 - 」の項目はバックアップはありません。

ファンクションの基本設定

			バックアップグループ
F1.	音程	A3=440Hz	F9.3
F2.1	音律	1(平均律)	
F2.2	基音	C	
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F9.1
F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと	
F3.3, F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと	
F3.5, F3.6	デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと	
F4.1	スプリット ポイント	F#2	
F4.2	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごと	
F4.3, F4.4	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごと	
F4.5, F4.6	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと	
F4.7	スプリット ダンパーペダルの有効域	ALL	F9.4
F5	共鳴効果の深さ	12	
F6.	メロノーム音量	10	F9.1
F7.	ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量	5	
F8.1	MIDI送信チャンネル	1	F9.2
F8.2	MIDI受信チャンネル	ALL	
F8.3	ローカルコントロール	ON	
F8.4	プログラムチェンジ送受信	ON	
F8.5	コントロールチェンジ送受信	ON	
F8.6	MIDIトランスポーズ量	0	
F9.	バックアップの設定	すべてOFF	*

「 * 」の項目は常にバックアップされます。

ミディ MIDI データフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kkH] [vvH]
 9nH = ノートオン/オフイベント(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.
 (送信:09H~7FH=A.2~C8)
 (受信:00H~7FH=C.2~G8)*1
 vvH = ペロシティ
 (ノートオン=01H~7FH, ノートオフ=00H)

[8nH] [kkH] [vvH] (受信のみ)
 8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.(00H~7FH=C.2~G8)
 vvH = ペロシティ

*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、
 オクターブ単位で折り返して発音します。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [ccH] [vvH]
 BnH = コントロールチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ccH = コントロールNo.
 vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)
 00H バンク選択MSB 00H:ノーマル
 20H バンク選択LSB 00H~7FH

プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理
 は保留されます。

2) メインボリューム(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)
 07H ボリューム 00H~7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)
 0BH エクスプレッション 00H~7FH

4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 40H ダンパー 00H~7FH

5) ソステヌートペダル(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)
 42H ソステヌート 00H~3FH:オフ, 40H~7FH:オン

6) ソフトペダル(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)
 43H ソフトペダル 00H~3FH:オフ, 40H~7FH:オン

7) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5BH エフェクト1デプス 00H~7FH

リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定し
 ます。

8) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5EH エフェクト4デプス 00H~7FH

3. モード・メッセージ

[BnH] [ccH] [vvH]
 BnH = コントロールイベント(n=チャンネルNo.)
 ccH = モード・メッセージNo.
 vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 78H オール・サウンド・オフ 00H

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。た
 だし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッ
 セージの状態は保持します。

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)
 79H リセット・オール・コントローラー 00H

以下のようにリセットされます。

コントローラー	設定値
エクスペリション	127(最大)
ダンパーペダル	(オフ)
ソステヌート	(オフ)
ソフトペダル	(オフ)

3) ローカルコントロール(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7AH ローカルコントロール 00H(オフ) 7FH(オン)

4) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 7BH オール・ノート・オフ 00H

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにし
 ます。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場
 合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7CH オムニ・オフ 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

6) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7DH オムニ・オン 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

7) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7EH モノ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

8) ポリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7FH ポリ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

補足

- ファンクションでコントロールチェンジON/OFFがOFF
 されているときは、コントロールチェンジは送受信されま
 せん。ただし、Bank MSB/LSB、モードメッセージを除き
 ます。
- ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しまし
 せん。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合
 わせません。)
- ボイス・バンク(MSB、LSB)受信時は、順番に関係なく
 受け付けた番号を内部パッファに保存し、プログラム
 チェンジを受信した時点のパッファ値を用いて実際の
 音色を決めます。
- 本機は常にマルチティンパー・モード、ポリ・モードであ
 り、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ポリ・モードを受信
 しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH] [ppH]
 CnH = プログラムチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ppH = プログラムチェンジNo.

ファンクションでプログラムチェンジON/OFFがOFF
 されているときは、プログラムチェンジは送受信されま
 せん。Bank MSB/LSBも送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、<付
 表1>をご参照ください。

5. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

200msecごとに送信します。
 一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信
 号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノ
 ート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したとき
 と同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

96分タイミングで送信します。
 エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスター
 ナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信し
 ます。

3) スタート

[FAH]

レコーダスタート時に送信します。
 受信するとソングがスタートします。
 クロックがInternalに設定されているときは受信しま
 せん。

4) ストップ

[FCH]

レコーダストップ時に送信します。
 受信するとソングがストップします。
 クロックがInternalに設定されているときは受信しま
 せん。

MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネル
 のダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール
 ノート・オフします。

<付表1>

各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

	通常音色			VARIATION音色		
	MSB	LSB	P.C.#	MSB	LSB	P.C.#
GRAND PIANO	0	112	0	0	113	0
CLASSICAL PIANO	0	114	0	0	115	0
JAZZ PIANO	0	112	1	0	113	1
ROCK PIANO	0	114	1	0	115	1
E.PIANO 1	0	112	5	0	112	88
E.PIANO 2	0	112	4	0	118	4
HARPSICHORD	0	112	6	0	115	6
STRINGS	0	112	48	0	113	49
PIPE ORGAN	0	112	19	0	113	19
CHURCH ORGAN	0	115	19	0	114	19
JAZZ ORGAN	0	112	16	0	113	16
BASS	0	112	32	0	114	32

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ヤマハMIDIフォーマット)

[F0H] [43H] [0nH] [7CH] [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH :n=チャンネルNo.
00H,2CH :データ長
43H,4CH,20H,20H :CL
43H,4CH,50H,27H,39H,38H:P-80
30H,30H : (パ' シ' ョ' n.x.y)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)]=0-(43H+4CH+20H+.....+データエンド)
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1) ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ

[F0H] [7FH] [XnH] [04H] [01H] [!!H] [mmH] [F7H]

MIDIマスターボリューム

全チャンネルの音量が一度に変化します。
MIDIマスター・ボリュームを受信したときは、MIDI入力
チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは変
化しません。

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7FH :ユニバーサル・リアルタイム
7FH :ID of target device
04H :サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H :サブID #2(マスターボリューム)
!!H :ボリュームLSB
mmH :ボリュームMSB
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7FH :ユニバーサル・リアルタイム
XnH :Xは無視、nは0~Fを受信
04H :サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H :サブID #2(マスターボリューム)
!!H :ボリュームLSB
mmH :ボリュームMSB
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ(GM ON)

[F0H] [7EH] [XnH] [09H] [01H] [F7H]

ジェネラルMIDIモード・オン

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7EH :ユニバーサル・ノン・リアルタイム
7FH :ID of target device
09H :サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H :サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7EH :ユニバーサル・ノン・リアルタイム
XnH :Xは無視、nは0~Fを受信
09H :サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H :サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期
状態になります。このメッセージの実行には、約50msec
かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してくださ
い。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(XG規格)

1) XGネイティブ・パラメーター・チェンジ

[F0H] [43H] [1nH] [4CH] [hhH] [mmH]
[!!H] [ddH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
43H :ヤマハ
1nH :送信時は常に0、受信時は0~F
4CH :XGモデルID
hhH :アドレスHigh
mmH :アドレスMid
!!H :アドレスLow
ddH :データ
: :
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) バルクダンプ(受信のみ)

[F0H] [43H] [0nH] [4CH] [aaH] [bbH] [hhH]
[mmH] [!!H] [ddH] [ccH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
43H :ヤマハ
0nH :送信時は常に0、受信時は0~F
4CH :XGモデルID
aaH :バイト・カウント
bbH :バイト・カウント
hhH :アドレスHigh
mmH :アドレスMid
!!H :アドレスLow
ddH :データ
: :
ccH :チェック・サム
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

対応するXGパラメーターについては、付表2, 3, 4を参照
してください。

XGシステム・オンを受信すると、必要なパラメーター、
コントロール・チェンジ等をリセットし、初期状態になりま
す。このメッセージの実行には、約50msecかかるため、
次のメッセージとの間隔を注意してください。

XGネイティブ・パラメーター・チェンジは、データサイズ
が2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータを
送信します。

XGバルクダンプのアドレスおよびバイトカウントは、付
表2のMIDIパラメーター・チェンジ表(システム)を参照
してください。付表中一タールサイズで区切られたデー
タシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの先頭
アドレスのみバルクデータのアドレスとして有効です。

<付表2>

MIDIパラメーター・チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)	
00 00 00	4	020C ~ 05F4	マスター・チューン	-50 ~ +5[セント]	00 04 00 00	020CH以下の値は-50セントになります。
01				1stビット3~0 ビット15~12	400	05F4H以上の値は+50セントになります。
02				2ndビット3~0 ビット11~8		
03				3rdビット3~0 ビット7~4		
				4thビット3~0 ビット3~0		
04	1	00~7F	マスター・ボリューム	0~127	7F	
05	1					
06	1	34~4C	トランスポート	-12~+12[セプトーン]	40	28H~33Hの値は12~-1に折り返ります。
7E		0	XGシステム・オン	00=XGシステム・オン		4DH~58Hの値は+1~-12に折り返ります。
7F		0	オール・パラメーター・リセット	00=オン(受信のみ)		
トータルサイズ	07					

<付表3>

MIDIパラメーター・チェンジ表(エフェクト1)

リバーブ、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00 ~ 7F	リバーブ・タイプMSB	エフェクトMIDIマップを参照	01 (=ホール1)
		00 ~ 7F	リバーブ・タイプLSB	00:ベーシック・タイプ	00
02 01 40	2	00 ~ 7F	バリエーション・タイプMSB	エフェクトMIDIマップ参照	00 (=エフェクトなし)
		00 ~ 7F	バリエーション・タイプLSB	00:ベーシック・タイプ	00

注意:ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表4>

MIDIパラメーター・チェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00 ~ 7F	ドライレベル	0 ~ 127	7F

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(Reverb)

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H

<付表6>

エフェクトMIDIマップ(Effect)

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
SYMPHONIC	44H	10H
TREMOLO	46H	10H
DELAY	05H	10H

9. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(クラビノーバMIDI準拠)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [nnH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス

43H : ヤマハ

73H : クラビノーバ

xxH : 機種ID (P-80:66HまたはCLP共通:01H)

nnH : サブステータス

コントロール nn

内部クロック 02H

外部クロック 03H

バルクデータ 06H (06Hの後にバルクデータが続く)

F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

nn=02H,03Hの機種IDは、機種(66H,01H)の代わりに、クラビノーバ共通ID(01H)がきてても受け付けます。

シーケンスデータバルクダンブ

F0H,43H,73H

66H : P-80 ID

06H : バルクID

05H : シーケンスデータ

0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH : データレンジ

[バルクデータ] :

[チェックサム(1バイト)] : 0 - sum(バルクデータ)

F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

10. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(特殊操作子)

[F0H] [43H] [73H] [66H] [11H] [0nH]
[ccH] [vvH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス

43H : ヤマハ

73H : クラビノーバ

66H : P-80 ID

11H : SK特殊操作子

0nH : コントロールMIDIチェンジ(n=特殊操作子チャンネルNo.)

cc : コントロールNo.

dd : 値

F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール オン ccH vvH

スプリット・ポイント 常に00H 14H スプリット・キーNo.

外ノーム 常に00H 1BH 00H:オフ

01H:--

02H:2/4

03H:3/4

04H:4/4

06H:6/4

7FH:ビートなし

ダンパーレベル Ch:00 ~ 0FH 3DH (Chごとのピアノ・

ダンパー量を設定する)

00H ~ 7FH

チャンネル・デチューン Ch:00 ~ 0FH 43H (Chごとのデチューン

量を設定する)

00H ~ 7FH

ボイス・リザーブ Ch:00 ~ 0FH 45H 00H:リザーブ・オフ

7FH:オン*1

*1 リザーブ・オンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキー・オン時から有効になります。通常はリザーブ・オフです。

11. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(その他)

[F0H] [43H] [1nH] [27H] [30H] [00H]
[00H] [mmH] [llH] [ccH] [F7H]

マスター・チューニング(XGと後着優先)で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス

43H : ヤマハ

1nH : 送信時は常に0、受信時は0 ~ F

27H : TG100の機種ID

30H : サブID

00H :

00H :

mmH : マスターチューニングMSB

llH : マスターチューニングLSB

ccH : ccはなんでもよい。(7FH以下)

F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

この設定はGMシステムオン、XGシステムオンでリセットされません。

Function...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 1 - 16	1 1 - 16	
Mode Default Messages Altered	3 X *****	1 X X	*1 Poly Mode Only
Note Number : True voice	9 - 120 *****	0 - 127 21 - 108	
Velocity Note ON Note OFF	0 9nH, v=1-127 X 9nH, v=0	0 v=1-127 X	
After Key's Touch Ch's	X X	X X	
Pitch Bend	X	X	
Control Change	0,32 O 7 X 11 X 64 O 66 X 67 X 91 O 94 O 120 X 121 X	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Bank Select Volume Expression Damper Sostenuto Soft Pedal Reverb Depth Effect Depth All Sound Off Reset All Controllers
Prog Change : True #	0 *****	0	
System Exclusive	0	0	
Common : Song Pos. : Song Sel. : Tune	X X X	X X X	
System : Clock Real Time: Commands	0 0	0 0	
Aux : Local ON/OFF : All Notes OFF Mes- : Active Sense sages : Reset	X O O X	0 0 (123 - 127) O X	
Notes: *1 = Receive Mode is always multi timbre and Poly mode.			

Mode 1 : OMNI ON , POLY
Mode 3 : OMNI OFF, POLY

Mode 2 : OMNI ON , MONO
Mode 4 : OMNI OFF, MONO

o : Yes
x : No

別売品のご紹介

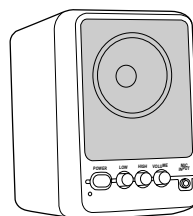
ヘッドホン HPE-160

¥5,500(税別価格)



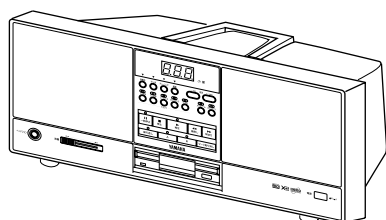
モニタースピーカー ヤマハMS101

¥12,000(1本、税別価格)



ミュージック データ プレーヤー MDP10(伴奏くん)

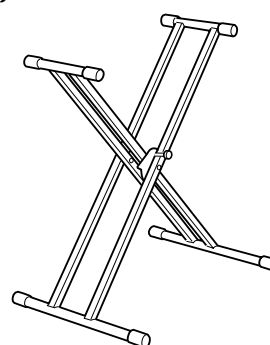
¥58,000(税別価格)



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノソフト」(P48)や「ピアノアンサンブル」(P48)をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。P-80と組み合わせ、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。(P48)

スタンド LU-80(アルティメイト製)

¥9,500(税別価格)



仕様

鍵盤	88鍵(A-1~C7)
音源	AWMダイナミックステレオサンプリング
最大同時発音数	最大64音
音色数	12+各音色バリエーション
効果	プリアンプ、リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ)、エフェクト(コーラス/シンフォニックトレモロ/ディレイ)
コントロール	デュアル、スプリット、メトロノーム、トランスポーズ、タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、各種ファンクション
レコーダー	2トラック録音/再生、テンポ、シンクロスタート
ペダル	サステイン
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲(プリセットソング)60曲
付属端子	アウトプットピン端子(L、R) & 標準フォン端子(L/L+R、R):出力インピーダンス600Ω、ヘッドフォン端子×2、TO HOST端子、MIDI(IN、OUT)、サステイン端子
定格電源	電源アダプターPA-3B(DC12V、700mA)
寸法[間口×奥行き×高さ]	1347mm×285mm×128mm
重量	16.8kg
付属品	電源アダプターPA-3B、ペダル、オーディオケーブル(ピンプラグ、ピンプラグ)、譜面立て、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

索引

- ・ この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P7「目次」をご覧ください。
- ・ ボタンの名前から説明を捜したい場合は、P12～P13「各部の名前」をご利用ください。
- ・ ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P34「ファンクション一覧表」をご利用ください。

そのほかのキーワードから説明を捜したい場合に、この「索引」をご利用ください。

- ・ 「*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

記号・ABC順

□の意味	6
▶の意味	6
ALL[ピアノ曲(プリセットソング)モード]	18
HPE-160	57
MDP10	48
MIDI	40、49
Muma	48
rnd[ピアノ曲(プリセットソング)モード]	18
XGソングデータライブラリー	48

あいうえお順

音律	36
音量調節	10
片手練習(ピアノ50曲)	19
基本設定	15、52
共鳴効果	39
ご愛用者カード	4
工場出荷時の設定	15
再生(曲の)	32～33
再生OFFしたパートの音量調節(ピアノ50曲)	39
小項目(ファンクション)	34
ショートカット(F3.デュアルの諸設定)	38
ショートカット(F4.スプリットの諸設定)	38
ショートカット(F6.メトロノーム音量の設定)	39
初期値(録音データ)とは---	30*
初期値(録音データ)の変更	31
シンクロススタート(曲の再生)	33
シンクロススタート(ピアノ50曲)	19
スプリットポイント	26
スプリットモード	26
セットアップデータとは---	40
ソングとは---	16*
大項目(ファンクション)	34
端子	8～10、43～44
ディスプレイ	14
デモ曲	16
デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モード	16～20
デュアルモード	25
電源	10
トラックの再生ON/OFF(曲の再生)	32
トラックのデータの削除	29*
パーソナルコンピューター	43～44
バックアップとは---	15*
ピアノ50曲	18～20
ピアノ50曲の練習方法	19～20
ピアノ アソシエ	48
ピアノ アンサンブル	48
ピアノソフト	48
ファンクションとは---	15
ファンクションモード	34～42
深さ(エフェクト)	23
深さ(リバーブ)	22
付属品	4
部分練習(ピアノ50曲)	20
譜面立て	8
ヘッドフォン	9
ペダル	9
保証書	4
メモリーとは---	15*
モードとは---	16*
モードの相関	16*、28*、32*、35*
録音モード	28～31

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

持込み修理のお願い

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL.(011)512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL.(044)434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087)822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL.(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL.(092)472-2134

[本社]

カスタマーサービス部 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL.(053)465-1158

住所・電話番号などは変更されることがあります。

ヤマハ電子ピアノに関するお問い合わせ窓口

クラビノーバ ポータブル楽器 インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL.053-460-5272

受付日 月曜日～金曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）

受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

電子楽器事業部 営業部 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
国内営業第二グループ TEL.053-460-3275

EM東京事業所
営業推進課

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL.03-5488-5476

北海道営業所

〒064-8543 札幌市中央区南10条西1-1-50ヤマハセンター内

TEL.011-512-6113

仙台営業所

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10住友生命仙台青葉通ビル

TEL.022-222-6147

EM大阪事業所

大阪特販課

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9心斎橋プラザビル東館

TEL.06-6252-7491

名古屋営業所

〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28

TEL.052-201-5199

広島営業所

〒730-8628 広島市中区紙屋町1-1-18

TEL.082-244-3749

九州営業所

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL.092-472-2130

住所および電話番号は変更になる場合があります。

インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>



この取扱説明書は
エコマーク認定の
再生紙を使用しています。



この取扱説明書は
エコパルプ（ECF無塩素系漂白パルプ）
を使用しています。

ヤマハ株式会社